

第3期高月地区住民福祉活動計画

ほのぼのとした“わ”で

ひろがるまち高月

2024年度 ~ 2028年度



地域づくりの

和

人づくりの

話

仕組みづくり
の

輪

目 次

| | |
|------------------------------|-----|
| はじめに | 3頁 |
| 1. 高月地区住民福祉活動計画について | 4頁 |
| (1)策定の背景 | |
| (2)計画の位置づけ | |
| 2. 高月地区の現状 | 6頁 |
| (1)人口、高齢化率等 | |
| (2)介護保険・しょうがいサービス事業所 | |
| (3)地域活動・関係機関 | |
| 3. 高月地区の課題 | 8頁 |
| (1)第2期高月地区住民福祉活動の成果から見えてきたこと | |
| 1) 高月地区保健データ | |
| 2) 各種アンケート調査結果 | |
| 3) 一人暮らし・高齢者世帯アンケート | |
| 4) 住民懇談会意見 | |
| (2)第3期活動計画に向けての地域課題 | |
| 4. 第3期高月地区住民福祉活動計画 | 18頁 |
| (1)基本理念 | |
| (2)策定の指針 | |
| (3)基本目標 | |
| 5. 計画の推進 | 24頁 |
| (1)計画の継続的な推進 | |
| (2)計画の推進体制 | |
| (3)計画策定期間 | |

はじめに

輝かしい人類の未来へのスタートであったはずの21世紀もすでに四半世紀を超え、振り返れば、正義の名のよとの戦争や、地球規模の環境破壊と飢餓、大災害、新型コロナウイルスによるパンデミックなど、人類の営みの有り様が、根本から問われる状況になっています。犠牲になるのは、いつも名もない市民、女性や子どもです。

我が国においても、少子化高齢化の伸長の結果人口減少社会となり、政情、景況の不安、打ち続く地震や豪雨災害など閉塞した状況が続くなかで、福祉を取り巻く環境は厳しく、社会保障など、だれもが安心して暮らせるための諸々の生活基盤を、継続的に維持し続けることが困難になってきました。

逆にこのような時代背景だからこそ、担い手となる現役世代が減少し続ける中で、社会的弱者といわれる高齢者や子ども、しょうがいのある人たち、生きづらさをかかえる人たちが地域で何不自由なく暮らせるために、私たちは何をしなければならないのかを、今以上に真剣に考えなければなりません。行政や人任せでなく、誰一人とり残さない共生社会、地域主体のまちづくりに、一人ひとりが取り組む必要があります。

高月地区においても、これまでの福祉サービスの水準を維持するための様々な施策に取り組んできましたが、市町合併後の行政の広域化による影響も考え、あらためて将来に向けての方針を明らかにする必要があります。そこで、福祉のまちづくりに取り組むための指針として、2016年から地区住民福祉活動計画を策定し、地域の課題に対応する様々な施策の取り組みを進めてきました。

そして、時代の変化やさまざまな課題を踏まえて、新しい「住民参加」のあり方や「地域共生社会」の仕組みづくりについて、アンケートや住民懇談会、関係機関との協議を経て、第3期高月地区住民福祉活動5か年計画を策定いたしました。2024年から5年間の活動計画で、「ほのぼのとした“わ”でひろがるまち高月」を基本理念として、高月らしい、地域に根差した住民主体のまちづくりを進めてまいりますので、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

2024年（令和6）年4月

高月地区社会福祉協議会
会長 嶋津俊治

1. 高月地区住民福祉活動計画について

(1) 策定の背景

高月地区では、2016（平成28）年から、第1期、第2期の住民福祉活動計画を策定し、だれもがいきいきと暮らせる自立した社会を目指して、『ほのぼのとした“わ”でひろがるまち高月』を基本理念に、様々な活動に取り組み、一定の成果を上げてきましたが、少子高齢化の進行やライフスタイルの変化などで、家族や地域のつながりが希薄になり、介護、子育て、暮らしなど日常のさまざまな場面で、課題が複雑化しています。

加えて、令和2年からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、日常生活や生き方まで変わろうとしています。様々な行動が制限される中で、地域の福祉活動も事業の中止や、規模の縮小などで対応せざるを得なくなりました。その結果、隣近所のつながりが薄くなり、福祉活動の担い手が減少するなどの課題がより明らかになり、地域福祉が次の段階を迎えることになりました。

このようなことから、あらためて私たちの身の回りの暮らしを見直し、地域の様々な課題に前向きに取り組むために、2024（令和6）年から5か年の「第3期高月地区住民福祉活動計画（以下「第3期計画」）」を策定するものです。

(2) 計画の位置づけ

長浜市社会福祉協議会、長浜市との連携

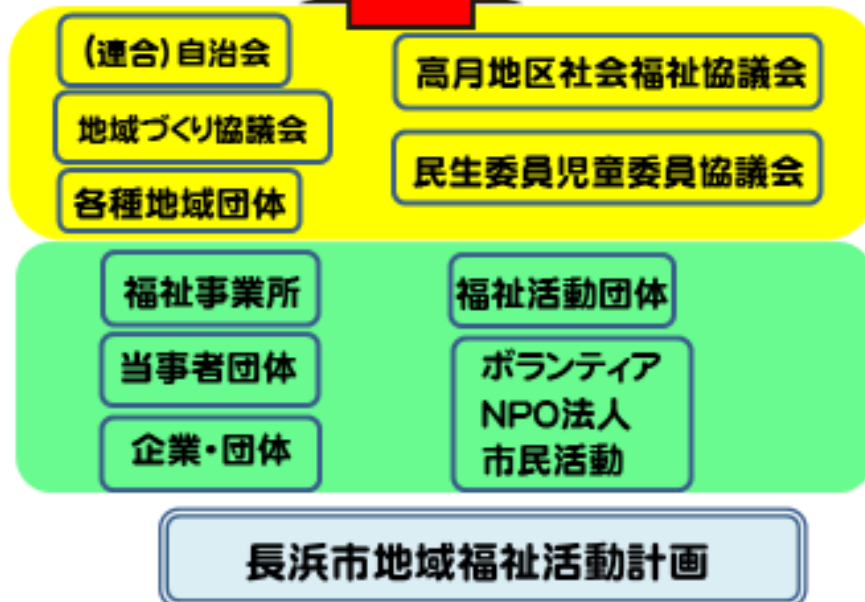
高月地区住民福祉活動計画は、長浜市社会福祉協議会が策定する「長浜市地域福祉活動計画」の理念、「多様性を尊重し 地域の絆で ともに育み支えあい 安心して暮らせるまち 長浜」の考え方と連動して、住民参加による活動と実践に取り組み、地域福祉を推進します。

併せて長浜市の地域福祉の施策計画である「長浜市地域福祉計画」とも連携し、三者協働による地域福祉の向上を目指します。これらの上位計画と、他の行政や関係機関・団体との「協働」も図りながら、福祉諸課題の解決をめざし、高月地区における「住民主体による福祉のまちづくり」を進めていきます。

計画の位置づけ

基本理念「ほのぼのとした“わ”でひろがるまち高月」

高月地区住民福祉活動計画



2. 高月地区の現状

高月地区は大部分が田園地域で、国道8号線やJR北陸本線沿いに工場や大規模小売店が立地しています。昼間人口は多く、また住宅地の整備も進み、自治会によっては世帯数が増加しているところもあります。一方で高齢者人口は増加をたどり、高齢化率も30%を超え、市平均を少し上回っています。

地域活動は活発ではあるものの、老人クラブへの加入率は減少しており、その他の団体も高齢化が課題となっています。サロンは約7割、転倒予防教室の自主グループは約3割の自治会で活動されています。介護保険やしょうがい者のサービス事業所も多く立地しており、サービスは比較的整っています。

(1) 人口、高齢化率等

高月地区の人口は2023年4月現在で9,354人、世帯は3,605世帯、高齢化率31.2%となっています。小規模の宅地開発や世帯分離等により世帯数は増えているものの、地区全体では高齢化率が上昇し、少子化や生産年齢層の市外転出などと合わせ、人口は少しずつ減少しています。

■人口比較

| | 2018(昭63)年 | 2023(令5)年 | 2025(令7)年 | 2026(令8)年 |
|---------|------------|-----------|-----------|-----------|
| 人口 | 9,724人 | 9,354人 | 9,448人 | 9,146人 |
| 男性 | 4,751人 | 4,568人 | | |
| 女性 | 4,973人 | 4,786人 | | |
| 0~14歳 | 1,363人 | 1,274人 | | |
| 15歳~64歳 | 5,510人 | 5,164人 | | |
| 65歳~ | 2,851人 | 2,916人 | 2,957人 | 2,826人 |
| 高齢化率 | 29.3% | 31.2% | 31.3% | 30.9% |
| 世帯数 | 3,279世帯 | 3,605世帯 | | |

人口は4月1日現在住民基本台帳 推計値は第8期ゴールドプラン長浜21基礎データより

(2) 介護保険・しょうがいサービス事業所

()内の数字は第2期計画策定時

■介護保険事業所

- ・居宅介護 4事業所(4)
- ・通所介護 8事業所(9)
- ・訪問介護 2事業所(3)
- ・訪問入浴 1事業所
- ・訪問看護 2事業所

■しょうがいサービス事業所

- ・居宅系事業所 2事業所
- ・通所・入所系事業所 5事業所(3)
- ・グループホーム 3事業所(2)

(3) 地域活動・関係機関

■地域活動

- ・サロン活動 27サロン(30)
- ・転倒予防教室 14教室

■教育関係

- ・認定こども園 1園
- ・小学校 4校
- ・中学校 1校
- ・無認可保育園 1園
- ・療育教室 1園
- ・福祉用具 2事業所
- ・入所施設 3事業所(2)
- ・グループホーム 2事業所

■医療機関

- ・開業医 4医院
- ・歯科医 2医院(3)

■子育て拠点施設

- ・あいあいランド 1か所
- ・放課後児童クラブ 3か所

3. 高月地区の課題

(1) 第2期高月地区住民福祉活動の成果から見えてきたこと

2019年から2023年まで第2期の活動期間に、地域福祉の様々な課題に積極的に取り組んできました。そのなかで、次のような課題が浮かびあがってきました。

少子化の課題

子どもを取り巻く状況は、少子化や社会環境の変化による影響が高月地区においても顕著で、校外活動は部活や、地域をまたぐスポーツ・文化クラブへの参加が中心になり、また交流範囲が広がることにより、今までのように地元で子どもたちが交流することが少なくなって、地域で子どもを育てることが難しくなっています。また、いじめや不登校など、生きづらさをかかえる子どもたちをどう支援するかが、高月地区においても大きな課題になっています。

高齢化・人口減少の課題

高齢社会の進行は、お年寄りを地域で支えることを困難にしています。特にコロナ禍以降は、サロン活動などの顔の見える関係づくりができなくなり、コロナ終息後も手探りの状態が続いて、今後常態化しないか心配されます。また、人口が減少する中、社会不安や経済停滞の状況に影響されて、団塊の世代が後期高齢者になっても、生きがいを持って、地域で元気に暮らすことができるか不安があります。

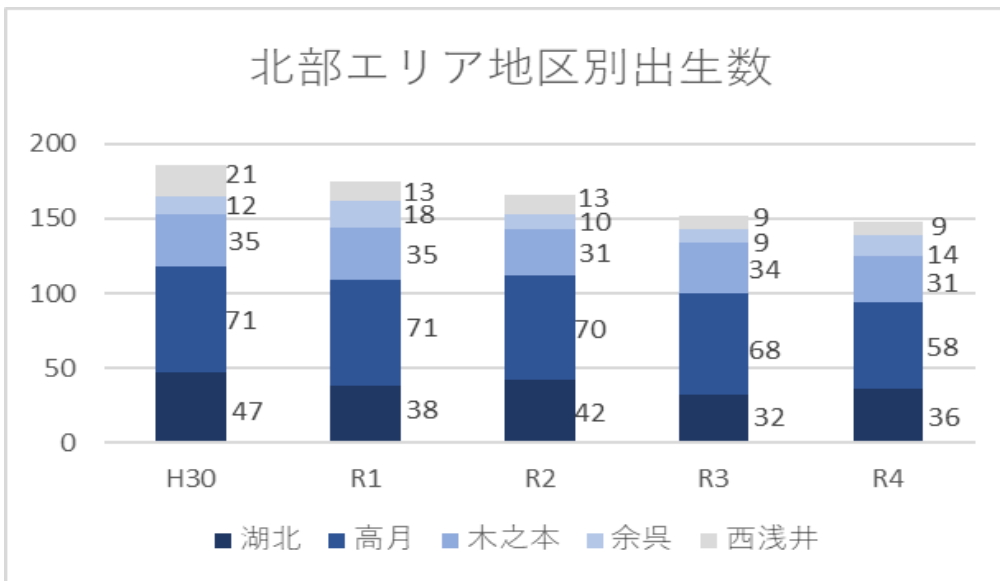
さらに、時代が個人中心になり、人間関係が希薄になる中でお互いが助け合うことが少なくなり、特に、しょうがいのある人やLGBTQの人々など、だれもが分け隔てなく、ともに暮らせる地域共生社会の理念が薄れていかないかが懸念されます。

これらの状況を踏まえて、今回の計画策定にあたっては、高月地区の保健データの収集や、福祉団体・事業所への調査、福祉推進員・自治会長・民生委員への聞き取り調査、また高月中学校生徒の意識調査、さらに一人暮らし高齢者へのアンケート調査等を実施し、地域の困りごとや必要とされている取り組みについて広くお聞きしました。その結果から、高月地区における主な課題をデータやアンケート別に見てみます。

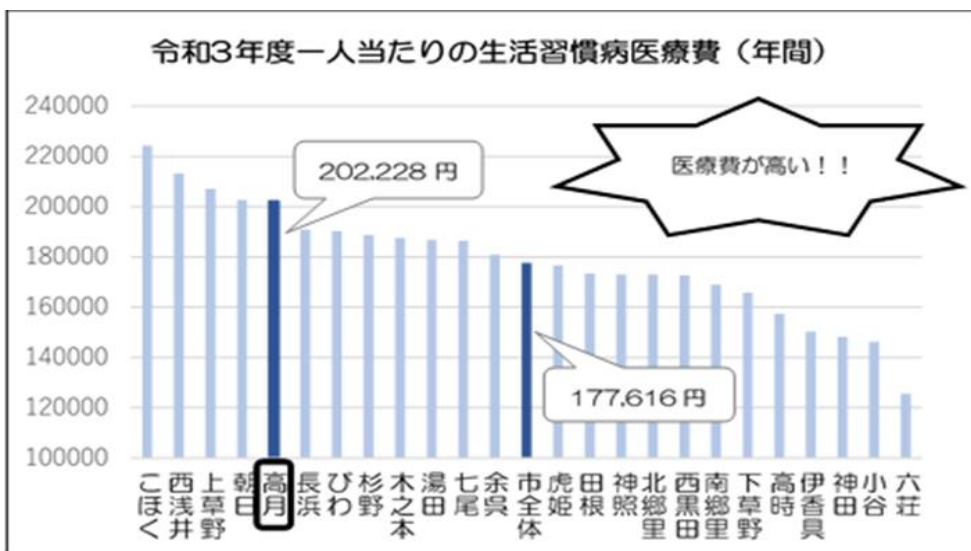
(詳細は「資料編」参照)

1) 高月地区保健データ

長浜市健康推進課、長浜市社協・湖北高月地域包括支援センターの調査資料から、一部抜粋したもので、特性は各項目の説明のとおりです。

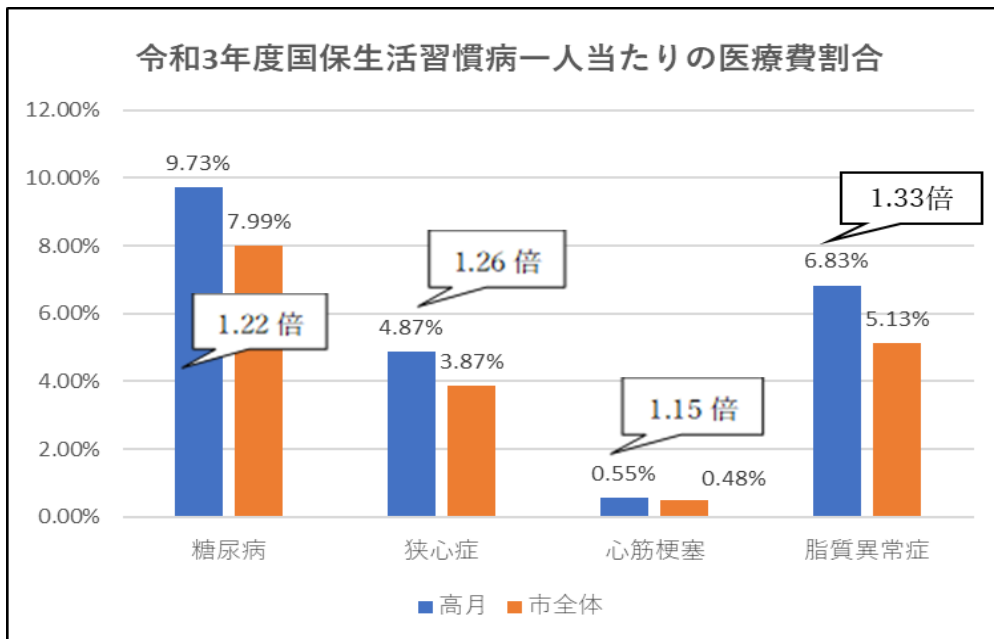


出生数が5年で2割も減少しています。結果として、子育て世代の交流の機会が少なくなって、育児に不安を感じる親が増えたり、地域で子育てをする環境が失われることが心配されます。また人口が減ることで、高齢化の進行と合わせ、地域の活力が衰退することが懸念されます。



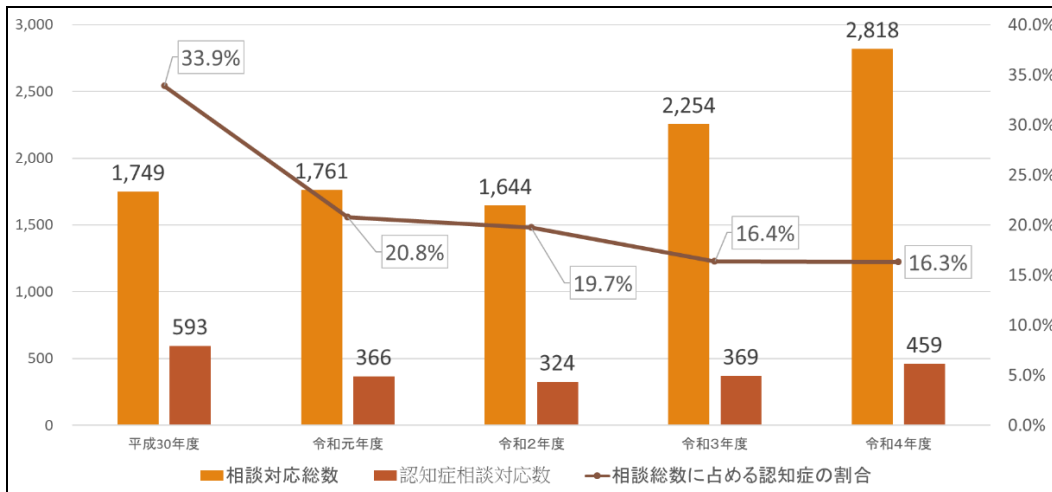
出典：国保データベースシステム

一人当たりの生活習慣病の医療費が、202,228円で市内第5位です。高齢化の状況、医療機関への受診機会の多さ、保健指導の充実、住民意識の高さ等、地域にどのような健康課題や特性があるのか、精査して対応する必要があります。



生活習慣病の全ての病気で、医療費は市平均を上回っています。地域に特性があるのか、疾病ごとの分析が必要なのか等、原因を把握して、重症化しないための予防の取り組みが、今後必要になると思われます。

認知症の相談件数の推移(湖北高月)



包括支援センターへの認知症の相談は、全体に占める割合は年々減少していますが、件数は増加傾向で、全対応件数の15~20%を占めていて、高い割合です。認知症への地域の理解や啓発の充実、また認知症の人を孤立させない地域での取り組みなどが課題です。

2) アンケート調査結果

市社協のアンケート調査や、地区社協福祉推進員研修会、高月中の生徒意識調査など、様々な意見をいただきました。今後の施策に具体的に反映させるために、第3期計画で策定する基本目標別に分類しました。主な意見は次のとおりで、詳細は「資料編」を参照してください。

【基本目標1 つながりを広げる交流と参画】

i 福祉団体・事業所調査の主な意見

(長浜市社協の調査から高月町分のデータを抽出しました。)

- コロナ禍で地域のつながりが薄まった。また世代間の交流もなくなり、若い人や女性など広範囲の意見が聞けていない。
- 地域の高齢化が進み、地震や水害などの災害時に、全ての人を救えるか不安。
- 人のつながりが無くなり、ボランティアや専門職などの人材が不足している。
- 人が集まる仕組みを考えることが大切。いろいろな力をまとめることができれば多くの問題が解決できる。

ii 福祉推進員、自治会長、民生委員の主な意見

(地区社協の福祉推進員研修会で出された意見をまとめたものです)

- 高齢社会で空家、独居老人が増えて地域のつながりが無くなってきた。見守りや災害避難など、自治会だけでは無理な状態。
- 福祉委員会とかみんなが助け合う組織が必要でないか。声掛けが大事。
- 若い人が外へ出て行き、帰ってくる人がいても、うまく地域になじめないでいる。みんなが集まる機会を増やすとか、明るいまちづくりが出来ないか。

iii 高月中(TSK=たかつきを すてきに かたろう会)調査の主な意見

(高月中生徒会が取り組んだ、地域を見直す活動のアンケート結果です)

- 地域を元気にするために、あいさつ運動、ごみゼロ運動などで地域の交流を増やす。町おこしなどのイベントで人を集めて活性化することが大事。
- 高月の文化を知って伝える活動をする。

【基本目標 2 思いやりでつなぐ居場所づくり】

i 福祉団体・事業所調査の主な意見

- ・コロナ禍で高齢者の活動量が低下し、地域で隔たりが出来ている。話し相手やサロンなど交流の場づくりなど活性化が必要。
- ・買い物や病院の送迎などの支援が必要。デマンドタクシーなど移動支援の充実

ii 福祉推進員、自治会長、民生委員の主な意見

- ・一人暮らし高齢者が増えている。病気等緊急時の対応に不安がある。声掛けなど日常のコミュニケーションが大事。
- ・転倒予防教室、体操など具体的な見守り活動を実施する。専門的な指導が必要。

iii 高月中（TSK＝たかつきを すてきに かたろう会）調査の主な意見

- ・独居老人を支援する活動が出来たらいい。
- ・本屋さんを誘致してほしい。コンビニや外食したり、遊ぶ場所を作ってほしい。

【基本目標 3 地域で支える見守り活動】

i 福祉団体・事業所調査の主な意見

- 高齢者やしょうがいのある人、生きづらさを抱える人への地域の理解が足りない。
- 個々人の防災意識を高めないと、いざという時高齢者などが取り残されてしまう。
- 認知症の人が増えているが、みんなの理解が薄い。日常的に自治会や近隣の協力が無いといざという時に対応が困難。
- 縁満カフェのような取り組みが全体に広がればいい。ほのぼのホールの利用なども知らない人が多いのではないか。つなぐ場が必要。

ii 福祉推進員、自治会長、民生委員の主な意見

- 隣近所のつきあいが無くなった。いのちのバトンや防災マップ作りで、顔の見える関係を作り直さないといけない。
- 子ども会や自治会の活動を活発にしたい。地域の困りごとが見えにくくなっている。
- 高齢者、子ども、しょうがい者など、現状で何が課題か先ず実態を把握することが大事。そのうえで話し合いや連携が重要である。

iii 高月中（TSK＝たかつきを すてきに かたろう会）調査の主な意見

- ゴミ拾いや花植えの美化活動など、地域のみんなで取り組める活動をする。
- 高月の歴史を伝えていく。環境を壊さない、自然を大切にする。

【基本目標 4 活動を支える仕組みづくり】

i 福祉団体・事業所調査の主な意見

- 地区社協、地域づくり協議会ほか様々な福祉団体があるが、単独で取り組むのではなく、連携して取り組むことで効果を上げてほしい。
- いろんな活動に男性の参加、若い人の参加が少ない。もっと呼びかけが必要でないか
- 施設や事業、地域の福祉の活動の担い手が不足している。メンバーが固定して活動が停滞している。先が心配である。
- 施設や事業所が足りない状況がある。人不足のなかだが、計画的に増やしていくことを今から考えておかないとだめだと思う。
- 施設や事業所においては、災害時の対応がとても不安である。全町的な指示系統や避難の対応が見えてないので、緊急対応が出来ない。
- 障害のある人への理解が進まない。地域の経済の一部を事業所が担えるほどになれば、少しは啓発が進むかもしれない。

ii 福祉推進員、自治会長、民生委員の主な意見

- 自治会活動は、高齢化や若い人の参加が少ないなど、将来への不安があります。福祉委員会など、目的に沿った組織づくりが必要です。
- 自治会の見守り活動の充実、除雪支援、自警団の活用、防災福祉マップ作りなど、出来ることは多くあります。情報収集や関係改善に取り組みたい。

3) 一人暮らし・高齢者世帯アンケート

一人暮らしと高齢者のみ世帯へアンケートを実施しました。回収率は65.1%と高く、関心が高いことが伺えます。内容は、買い物、通院などの日常生活が困難なことや、将来への不安が強く、やはりより多くの支援が必要な状態です。主な意見は以下のとおりです。詳細は「資料編」を参照ください。

- 高齢者夫婦なので、老人会など村でのコミュニケーションを多くしてほしい。
- 老夫婦で、老人ホームに入りたいが介護認定出来ない。満室で入れないようだし。
- 病気や買い物、経済面や除雪など、先のことを考えると不安になる。
- 外出の機会も少なくなり、地域で孤立しがちで相談する相手もない。
- 動けなくなった時どうすればいいかわからない。出来るだけ周りに迷惑をかけずにいたいと思ってはいるが。
- 食事、運動、睡眠に気をつけている。困ったときのお助けガイドブックのようなものがあれば助かる。
- 主人が亡くなって年金が少なくなり生活に困っている。家賃を安くしてほしい。
- 腰痛が悪化してデイサービスに通っています。妻が認知症で施設入所ですが、費用が高くてたいへんです。
- 大雪の 때가たいへん。自治会で人をお願いしてもらえないか。
- 大雨や地震など不安です。高月町だけでも訓練を実施してほしいと思います。
- 主人の介護のため、活動などに参加できません。子どもの世話にならずに死ねたらいいと思う。
- 高齢者の一人暮らしで、力仕事や高い場所の仕事などが困ります。シルバーさんに頼むほどでもなく、人に頼むのもおっくうになる。
- 隣近所と付き合いがないので、ちょっとした事のお頼みがしにくい。
- 妻が認知症で、費用が高くてたいへん。私も腰痛があり、気をつけているが。
- 車に乗れなくなると行動範囲が狭くなり、閉じこもりになりそう。免許を返納した時のことを考えると心配です
- 免許証を返納したので、買い物や通院に困っている。知人に頼んでもお礼も貰ってもらえないので頼みづらい。デマンドタクシーも長浜病院や日赤病院までは行けない。
- 「ほのぼの給食」が楽しみです。子どもさんの手紙や民生委員さんに感謝しています。
- 絵手紙をいつもありがとうございます。サイドボードに貼っていつも見えています。

4) 住民懇談会意見

広く地域住民の意見を求めるため、自治会代表、民生委員児童委員代表、各校園保護者代表、各福祉関係者等から意見を伺い、第3期計画の基本目標ごとに分類しました。

もっと連携した取り組みが出来ないか、地域で子どもをどう育てるか、人材育成をどうするのか、人のつながりを大切にする取り組みを、等々さまざまな意見や要望があり、地域福祉の取り組みへの関心の高さが伝わりました。主な意見は次のとおりです。詳細は「資料編」を参照してください。

【つながりを広げる交流と参画】

- 地域の交流が少なく、参加者が固定している。お互いが支えあう仕組みが出来ていない。災害支援や子どもを巻き込んだ交流など、自治会の活性化を図る。
- 情報交換など各種団体間の連携がなく、活動がバラバラである。担当者が交代することで、継続した取り組みが出来ない。自治会の全体をまとめる取り組みが出来ないか。

【思いやりでつなぐ居場所づくり】

- 子どもを地域でどう育てるか。次の世代の人材育成を考える。青年層の活動を支援する。観音まつり、ごえん市など元気な活動を支える取り組みが必要。
- ボランティアや若い人が参加できるイベントの提案や、すべての世代を対象にした町を挙げての催しが出来ると楽しい。

【地域で支える見守り活動】

- 登下校の見守りや高齢者の配食サービスなど、地道な支援活動は定着している。ボランティアや自治会での関わりを支援する仕組みなど、人の輪を広げることが大事。
- 認知症の対応、防災の取り組み、子育て支援、しょうがいのある人への支援など、地域の情報共有や連携が不十分。課題ごとのつながりづくりが必要。

【活動を支える仕組みづくり】

- 活動に関わる人の連携が不十分で、全体の活性化につながらない。定期的に思いを共有したり、仕組みの簡素化や交流などについて意見交換の場が必要でないか。
- 連携を具体化するためのコーディネーターや場所をどうするか。担い手の発掘が当面の課題だが、出来るところから少しずつ取り組む。

(2) 第3期活動計画に向けての地域課題

地域共生社会 ～人口減少、少子高齢社会を越えて次世代へバトンタッチ～

第2期の福祉活動については、前半は順調に推移しましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、後半は地域のさまざまな活動が大きく停滞しました。地区社協の取り組みについても、多くが中止や縮小せざるをえませんでした。5類移行後も、外出制限の影響もありしばらくは順調ではありませんでしたが、2期の終盤にはようやく以前のような活動に回復して、多くの事業に取り組みました。

子どもたちの様子は、以前と比べて外で遊ぶことが少なくなって、子どもを地域の一員としてみんなで育てる機会が少なくなっています。また、結婚等により生産年齢層の転出が増加傾向にあり、ひいては地域を若者と一緒に活性化しようという動きも十分ではありません。

高齢者を取り巻く状況も深刻です。特に後期高齢者の移動支援については、高月地区は商業施設も多く、車に乗れば不便なく暮らせる地域ですが、ひとり暮らしや高齢者世帯の方など、買い物や通院に困るといった声も多く聞きます。また大雪や災害時に不安なく対応できるのか、まだまだ対策は十分とは言えません。

しょうがいのある人への対応や、生きづらい生活を送っている人への手当ても充分とは言えません。誰もが住みよいまちづくりを進めるために、地域共生社会の実現にはまだまだハードルが高い状態です。

総じて、子育て支援をどうするか、若者が定着できるまちをどう作るか、高齢者が本当に安全安心して暮らせる仕組みをどうするか、誰ひとりとり残さないまちづくりをどう進めるかなど、課題は山積ですが、地域の活性化のために人を育てること、仕組みを考えることなど、次の世代へのバトンタッチが大きな課題です。

4. 第3期高月地区住民福祉活動計画

第3期活動計画は、第2期の取り組みの中で見えてきた様々な地域の課題を踏まえ、解決への道すじをつけるため、これまで取り組んできた考え方に基づいて、

(1) 基本理念、(2) 策定の指針、(3) 基本目標を設定し、さらに新たな視点に立って次の時代に引き継ぐ計画として策定します。

(1) 基本理念

「ほのぼのとした“わ”でひろがるまち高月」

基本理念は、計画を進めるうえで土台となる基本的な方針です。第3期計画では、第1期計画から引き続いて、『ほのぼのとした“わ”でつながるまち高月』を基本理念とします。この基本理念のもと、時代の変化に合わせて、住民みんなが安心して暮らせる共生社会をめざして、策定の指針や基本目標をもとに、取り組みを進めます。

(2) 策定の指針

理念を具体的に行動に移すうえでの行動指針を定めます。第2期計画に引き続き、次の3つの視点をキーワードとして、明るく住みやすい住民主体の地域づくりをめざします。

1) 地域づくりの視点

『みんなにやさしい地域づくりの“和”』

「だれもが安心して暮らせる笑顔あふれるふれあいの地域づくり」を目標に、見守り活動や交流事業など、だれ一人取り残さない地域共生社会の実現をめざして、取り組みを進めます。

2) 人づくりの視点

『みんなではぐくむ人づくりの“話”』

「ともに支えあい、ともに頑張りあえる人づくり」をめざして、地域の活性化につながる人づくりや、若者世代と高齢世代の交流など、すべての人が生き生きと暮らせる取り組みを進めます。

3) 仕組みづくりの視点

『みんなをつなげる仕組みづくりの“輪”』

「みんなが助け合い、ともに協力しあえる仕組みづくり」をめざして、人と地域が共に育つ取り組みや、各種団体が交流し連携できる取り組みを通して、高月の今を支える活動に取り組みます。

(3) 基本目標

基本理念と策定指針を基づいて、これまでに明らかになった地域の現状や課題をもとに、行動指針に基づく具体的な推進活動を設定します。

1) 基本目標 1

「つながりをひろげる交流と参画」

【目標の行動指針】

地域のさまざまな交流活動を進めるなかで、人と人とのつながりを広め、事業への取り組みを通じて福祉の心を育み、人材の育成や気楽に話せるふれあい活動への参画の場を広げます。

【交流と参画の目安となる活動】

- ・健康ウォーキングに、地域づくり協議会、老人クラブ連合会と取り組みます。
- ・福祉のつどいを開催し、福祉の心の啓発に努めます。
- ・健康と安心な暮らしの研修会を開催し、住民の福祉への理解を高めます。
- ・認定こども園、小中学校へ本の配布をし、福祉教育の支援をします。
- ・認定こども園児へ本の読み聞かせや園児とのつどいを開催します。
- ・子ども縁日など、中高生や若年層の福祉活動への参加の機会を増やします。
- ・さまざまな機会を通じて、ボランティア活動を推進します。
- ・しょうがい児者との交流支援を行います。
- ・しょうがい児クリスマスサンタ訪問を実施します。
- ・つつじ作業所の活動に参加協力します。
- ・高齢者のスポーツや文化活動への参加促進に努めます。
- ・外出機会の少ない要支援高齢者の日帰り旅行に取り組みます。
- ・高齢者お出かけサロンを実施して、交流を深めます。
- ・災害対応の基金を活用して、災害等非常時の支援に取り組みます。

2) 基本目標 2

「思いやりでつなぐ居場所づくり」

【目標の行動指針】

居場所づくり活動は、だれもが身近なところで寄り集まれる仕組みや取り組みを通して、お互いが理解しあい、認め合えるふれあいの場づくりを進めるものです。当事者の思いを第一にしながら、人と人との出会いを大切にします。

【居場所づくりの目安となる活動】

- ・自治会のふれあいいきいきサロン活動の推進を支援します。
- ・サロンスタッフ講習会を実施し、地域の見守りを啓発します。
- ・自治会で気軽に声掛けや見守りができる取り組みを支援します。
- ・デマンドタクシーが気軽に利用できる取り組みに協力します。
- ・高齢者サロンと子育てサークルが交流できる取り組みを応援します。
- ・縁満カフェを開催し、誰もが参加できるサロン活動に取り組みます。
- ・ひとり暮らし高齢者等のふれあいのつどいを実施します。
- ・認知症があっても地域で見守れる取り組みを応援します。
- ・生きづらさをかかえる人の居場所づくりに取り組みます。
- ・しょうがいのある人が地域で共に暮らせるまちづくりに協力します。
- ・世代を問わず、だれもが地域で安心して過ごせる取り組みを支援します。
- ・「男の料理教室」「ヨガ教室」「フラワーアレンジメント」「シルバー体操」「囲碁将棋」など、高齢者福祉センターの事業を支援します。
- ・高月まちづくりセンターのサークル活動を支援します。

3) 基本目標 3

「地域で支える見守り活動」

【目標の行動指針】

だれもが住み慣れた場所で気兼ねなく暮らせることが、みんなの願いです。生きづらい思いを抱えている人への配慮や、災害などいざという時に誰ひとりとり残さない安心のまちを目指して、おたがいさまでつなぐ見守り活動に取り組みます。

【見守りの目安となる活動】

- ・日常生活見守り支えあい活動に協力し推進します。
- ・地域で高齢者が自立して暮らせるような自治会の取り組みを支援します。
- ・災害など、いざという時に助け合える日ごろの見守り活動を応援します。
- ・縁満カフェなどへの参加促進を通じて、地域での見守りや交流を進めます。
- ・赤十字奉仕団や更生保護女性会の活動を支援し協力します。
- ・飛び出し注意看板やストップマークを自治会に配布し、子どもの安全を守ります
- ・スクールガードなど子どもの安心を支える活動を支援します。
- ・ほのぼの給食サービスで、ひとり暮らし高齢者等の食生活や健康を支えます。
- ・自治会での福祉見守り会議の立ち上げや活動を支援します。
- ・いのちのバトンや防災福祉マップの取り組みを通じて自治会の活動を支援します。
- ・災害時の高齢者の見守りなど、地域ボランティアの活動を支援します。
- ・長浜市避難支援見守り支えあい制度の活用と促進を図ります。
- ・サロン活動や出前講座などで、自治会の見守りの取り組みを応援します。
- ・自治会の福祉推進員の活動を支援して、研修会等参加の充実を図ります。
- ・認知症の啓発や地域サポーターの養成により、要介護高齢者支援に努めます。

4) 基本目標 4

「活動を支える仕組みづくり」

【目標の行動指針】

高月地区の福祉の取り組みを確かなものにするには、住民の思いを大切にし、より多くの人の願いを叶えるための協働と連携が欠かせません。身近な福祉活動への積極的な参加を呼びかけ、さまざまなネットワークや協働活動の取り組みを進めます。

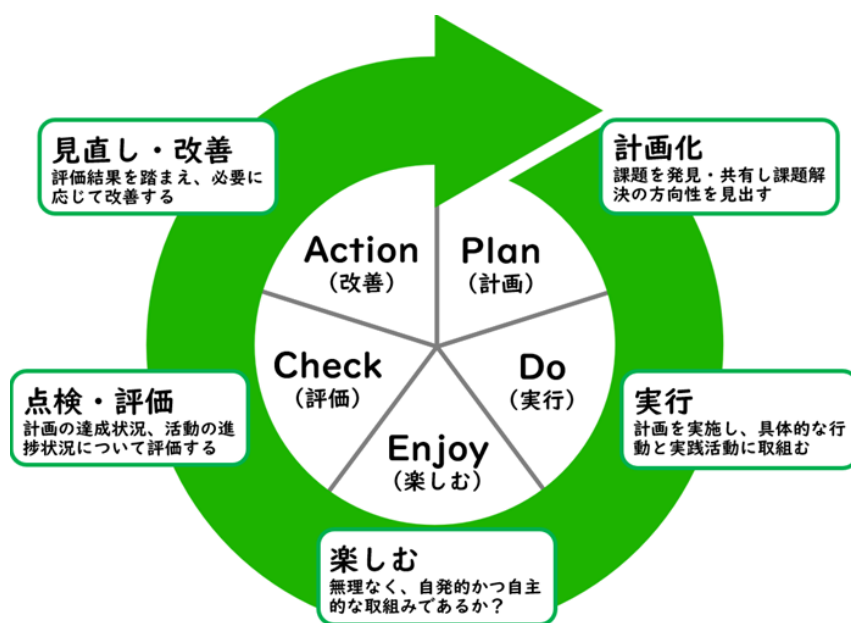
【仕組みづくりの目安となる活動】

- ・長浜市社会福祉協議会と協同し、地域の福祉環境の向上を目指します。
- ・民生委員児童委員との連携を強化し、きめ細かい福祉の向上に努めます。
- ・地区社会福祉協議会、地域づくり協議会、老人クラブ連合会、日赤奉仕団ほか関係団体との協調を目指して、連絡調整に努めます。
- ・暮らしの支えあい検討会で地域づくり協議会と連携して具体的な施策に取り組みます。
- ・福祉懇談会など協議の場を設け、地域住民の思いを施策に反映します。
- ・福祉計画策定委員会で、活動計画の見直しや点検に取り組みます。
- ・自治会福祉活動助成金や、小中学校へ福祉活動推進補助金を交付し、地域や学校の活動を応援します。
- ・子育てサークルに助成金を交付し、子育てを支援します。
- ・放課後児童クラブの活動を支援します。
- ・次世代ボランティアの育成に努めます。
- ・地区社協だよりを通じ、広報啓発活動を進めます。

5. 計画の推進

(1) 計画の継続的な推進

計画の効果的な実施と、円滑な推進を図るために、PDECA サイクルによる進捗管理に取り組みます。PDECA サイクルは、従来の PDCA サイクル（計画→実行→評価→改善）の取り組みをより活性化するため、自らが楽しんで（エンジョイ）参加することにより、持続可能で主体的な取り組みをめざすものです。



(2) 計画の推進体制

計画の推進は、高月地区住民福祉活動計画策定委員会が進行管理を行います。委員会は、計画の進捗状況や達成度を随時点検、把握し、成果を評価して定期的に見直しをするなど、PDECA サイクルに沿って計画の目標達成に向けて努力します。

(3) 計画策定期間

| 計 画 年 度 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | |
|----------------------|--------------|------------------------|------------------------|------|------|------------------------|------|------------------------|------|------|------|--|
| 高月地区 住民福祉 活動計画 | 策定作業 | | 【第2期】 進行管理・点検評価 | | | | | | | | | |
| | 地区計画 実施期間 | | 【第2期】 2019年度～2023年度 | | | | | 【第3期】 2024年度～2028年度 | | | | |
| 長浜社協 地域福祉 活動計画 | 市域計画 実施期間 | | 【第2期】 2019年度～2023年度 | | | | | 【第3期】 2024年度～2028年度 | | | | |
| 長浜市 地域福祉 計画 | 計画期間 | 【第2期】 2017年度～2021年度 | | | | 【第3期】 2022年度～2026年度 | | | | | | |

資料編

資料編目次

| | | |
|-----|--------------------|-----|
| (1) | 計画策定の経過 | 3頁 |
| (2) | 策定委員会設置要綱 | 4頁 |
| (3) | 策定委員会名簿 | 6頁 |
| (4) | 各種アンケート調査等 | 7頁 |
| (5) | 一人暮らし・高齢者世帯アンケート結果 | 24頁 |
| (6) | 住民懇談会意見 | 33頁 |

(1) 計画策定の経過

策定の期間 2023（令和5）年3月～2024（令和6年）3月

策定スケジュール

| 時 期 | 内 容 | 備 考 |
|-------------|---------------------------------------|----------------------------|
| 2023年3月 | 高月地区社会福祉協議会 各部会 第3期事業計画の検討 | ・ 2期振り返り |
| 2023年4月21日 | 高月地区社会福祉協議会 理事会 第3期事業計画の議案審議、承認 | |
| 2023年4月28日 | 高月地区社会福祉協議会運営委員会（総会） 第3期事業計画の提案、承認 | 計画策定の説明 |
| 2023年6月1日 | 第1回作業部会 2期のふりかえり、今後の予定調整 | 策定方法の協議 |
| 2023年6月24日 | 自治会福祉推進員研修 課題検討アンケート実施 | 福祉推進員 民生児童委員、自治会長 |
| 2023年6月29日 | 第2回作業部会 ヒアリングまとめ 基本計画見直し | 意見聴取と集約 |
| 2023年7月6日 | 第1回策定委員会 計画概要報告 各団体事業聞き取り | 第3期計画素案検討 周知方法の協議 |
| 2023年7月28日 | 第3回作業部会 アンケート結果まとめ 住民懇談会検討 | 基本目標点検、事業振分 |
| 2023年8月20日 | 高月中 TSK 参加 中学生と意見交換 | “高月をすてきに語ろう” PTA、他団体と合同 |
| 2023年9月12日 | 第4回作業部会 住民懇談会、独居高齢者アンケート | TSK 取りまとめ |
| 2023年10月13日 | 住民懇談会 課題共有と意見交換 | テーマごと班別座談会 |
| 2023年11月8日 | 第5回作業部会 計画詳細作業 ダイジェスト版協議 | 策定委員会への準備作業 |
| 2023年11月17日 | 第2回策定委員会 第3期計画詳細協議、とりまとめ | 住民懇談会の意見集約 |
| 2024年1月9日 | 第6回作業部会 計画確定作業 ダイジェスト版協議 | 本編最終調整 |
| 2024年2月1日 | 第3回策定委員会 計画本編、ダイジェスト版確定協議 | ダイジェスト版全戸配布 6月1日自治会発送 |

(2) 策定委員会設置要綱

高月地区住民福祉活動計画策定委員会設置要綱

(目的)

第1条 この委員会は、高月地区住民福祉活動計画（以下「活動計画」という。）の策定及び検証について、住民、関係団体、学識経験者からの幅広い意見を聴取し、地域福祉の推進に寄与することを目的とする。

(名称)

第2条 この委員会は、高月地区住民福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）と称する。

(組織)

第3条 委員会は、委員27人以内で構成する。

2 委員会の委員は、別表に掲げる者のうちから高月地区社会福祉協議会（以下「地区社協」という。）会長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日からその当該年度末までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は地区社協会長が務める。

3 副委員長は、委員長の指名によって決める。

4 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、議長を務める。

2 委員長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の委員会への出席又は資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は長浜市社会福祉協議会高月センターにおいて処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営その他必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成30年5月29日から施行する。

別表（第3条第2項関係）

| |
|-----------------------|
| 学区連合自治会代表 |
| 高月地区民生委員児童委員協議会代表 |
| 高月地域づくり協議会代表 |
| 長浜市老人クラブ高月支部代表 |
| 長浜市高月赤十字奉仕団代表 |
| 高月地区ボランティア連絡協議会代表 |
| 長浜市社会福祉協議会高月センター管理者 |
| 高月地区社会福祉協議会役員 |
| 社会福祉団体関係者 |
| 学識経験者 |
| 高月地区社会福祉協議会会長が必要と認める者 |

(3) 高月地区住民福祉活動計画策定委員会名簿

敬称略

| 氏名 | 役職 | 備考 |
|--------|------------------------|------|
| 平井 利之 | 富永連合自治会長 | |
| 山岡 隆暢 | 高月連合自治会長 | |
| 岩崎 哲 | 古保利連合自治会長 | |
| 片山 三男 | 七郷連合自治会長 | |
| 片山 源之 | 高月地域づくり協議会会長 | |
| 中川 博貢 | 高月地区民生委員児童委員協議会会長 | 副委員長 |
| 谷井 信夫 | 高月地区民生委員児童委員協議会副会長 | |
| 山岡 純子 | 高月地区民生委員児童委員協議会副会長 | |
| 雨川 孝一 | 長浜市老人クラブ連合会高月支部会長 | |
| 浅野 ひろ子 | 長浜市高月赤十字奉仕団委員長 | |
| 熊谷 昇助 | 高月地区ボランティア連絡協議会会長 | |
| 小川 春美 | 長浜市社会福祉協議会 高月センター施設管理者 | |
| 大橋 通伸 | 社会福祉法人おおぞら福祉会理事長 | |
| 七里 藤吾 | 学識経験者 | |
| 鳶津 俊治 | 高月地区社会福祉協議会会長 | 委員長 |
| 北村 滋敏 | 高月地区社会福祉協議会副会長 | |
| 七里 まさ子 | 高月地区社会福祉協議会副会長 | |
| 福田 義本 | 高月地区社会福祉協議会地域福祉部会長 | |
| 天守 正博 | 高月地区社協子ども・しょうがい者福祉部会長 | |
| 雨森 房夫 | 高月地区社会福祉協議会高齢者福祉部会長 | |

作業部会員名簿

敬称略

| 氏名 | 役職 | 備考 |
|--------|-----------------------|----|
| 鳶津 俊治 | 高月地区社会福祉協議会総務部会 | |
| 北村 滋敏 | 高月地区社会福祉協議会総務部会 | |
| 七里 まさ子 | 高月地区社会福祉協議会総務部会 | |
| 中川 博貢 | 高月地区社会福祉協議会総務部会 | |
| 山岡 純子 | 高月地区社会福祉協議会総務部会 | |
| 山岡 孝明 | 高月地区社会福祉協議会総務部会 | |
| 高田 好之 | 高月地区社会福祉協議会総務部会 | |
| 阿閉 博子 | 高月地区社会福祉協議会総務部会 | |
| 川田 直孝 | 高月地区社会福祉協議会総務部会 | |
| 福田 義本 | 高月地区社会福祉協議会地域福祉部会長 | |
| 天守 正博 | 高月地区社協子ども・しょうがい者福祉部会長 | |
| 雨森 房夫 | 高月地区社会福祉協議会高齢者福祉部会長 | |

(4)「福祉団体・事業所調査」 「福祉推進員・自治会長・民生委員意見」

「高月中 TSK=たかつきを すてきに かたろう会」 調査まとめ

このアンケート結果は、長浜市社会福祉協議会アンケートの高月町分の集計と、高月地区社会福祉協議会福祉推進員研修会でのアンケート、および高月中学校「TSK=たかつきを すてきに かたろう会」のアンケートの、それぞれの自由意見をまとめたものです。

第3期高月地区住民福祉活動計画の4つの基本目標に分類し集約しています。

■長浜市社会福祉協議会アンケート（高月分）

福祉団体 : 6団体 (長浜市 150 団体中)
福祉事業所 : 26事業所 (長浜市 400 事業所中)

■高月地区社会福祉協議会アンケート（研修会参加者）

福祉推進員 32人
自治会長 10人
民生委員児童委員 15人

■高月中学校「TSK=たかつきを すてきに かたろう会」アンケート

3年生 65人

基本目標1：つながりを広げる交流と参画

【福祉団体】

■課題

- この3年間はコロナ感染症予防のためのいろいろな制限があり、十分な活動は出来ませんでした。また、会議の回数も減り、皆さんとの意見交換も十分ではありませんでした。
- コロナがあっただけ地域での人とのつながりがさらに薄くなってきているようです。多くの人が自分本位になりすぎて地域での支え合いやコミュニティの重要性、必要性を軽んじてきています。
- 地域でのつながりの重要性や必要性をアピールすることが必要。
- 地域での対話が少ない。家に昼間は老人ばかり。夜は若い人がいるのか？社会がそうはさせてくれない。老人ばかりの考えでは、調和がとれない。また、若い人の人口が少なく、地域を引っ張るにはやはり若い人の多い方がいい。対話の中で若い人の考え方を老人も勉強し、また、若い人も老人の考えを理解してもらう。こんな風な対話が出来れば地域がひとつになれると思う。
- 老人会活動も組織の弱体化、新規加入者の減少で組織内高齢化が進み、活動が活性化していません
- 団員の高齢化により奉仕作業等参加が減少してきた、でも男性団員の協力も少人数ではあるが参加協力して頂いているので大変うれしいことです。 ・活動者の減少
- 各グループそれぞれ工夫されて活動を続けてこられました、高齢化が進んでおり、活動を休止さ

れたグループがあり、淋しく思っています。労働環境も変わってきており、何歳になっても働き続けられる方が多くなり、新しくボランティア活動に参加される方がなかなか見つかりません。

- 年金の支給年齢がどんどん上がっていくことが大きな要因の一つですが、老人会員の年齢が高齢すると活動が弱体化して、特に地域を豊かにする社会活動ができなくなります。60歳～70歳代の活力による社会奉仕（ボランティア）などの活動があればと思います。
- 若い人に対しての民生委員活動もほしいと思う。

■地域と連携して取り組みたいこと

- 地域づくりは、住民全てにかかわらなければ、成り立たない。地域づくりには若い人がリーダーを発揮してほしいと思う。
- 研修会で活動者の資質を高めたい。
- スタッフを募集すると共に、地域女性会、各町内会長、民生委員、子供会の役員などの方の協力を得て、自治会の行事として取り組んでいきたい。

■こんな取り組みあがるといいなと思うこと

- 難しいと思いますが、地域にどんな方がどんな思いで生活されているか、どんな取り組みが必要か、その中で、わくわく食堂が担う役割はあるのか。もう少し、データや情報を分析出来る取り組みはないのか、専門家や社協の方のアドバイスが欲しいです。私達の知識不足を感じています。

【福祉事業所】

■課題

- 昨今の新型コロナ感染症の広がりにより、地域と法人、利用者と法人、職員間などのコミュニケーションが希薄になったところが、一番の課題です。
- 新しい生活様式となり、ここ3年間は地域とのつながりも無くなりました。そのため、地域の様々な課題への対応が出来なくなっており、一から関係構築をすることが必要ですが、それにも相応の時間があるものと思われます。
- 利己主義の広がりを感じ、若者世代の地域への関心が低下している反面、熱心にやさしく声をかけながらお弁当配りをされる民生委員さんなどがおられ頭が下がる思いです。

■地域と連携して取り組みたいこと

- 事業所の掲示板を使用し、講演会や研修の情報を伝えるようにしていますが問い合わせが少ないので他の方法も実行しようと思います。
- 老人会、地域行事への参加、協力。
- 児童が集まって遊べるイベント。
- 今までも「介護者のつどい」や「出前講座」など地域貢献活動を行っており、今後も続けたい。
- 地域への情報発信
- 先日、医療法人主催の講演会が隣湖であり、同日当施設駐車場にてマルシェや、ジムの見学等も行い、たくさんの方にご利用を頂きました。ひとつ経験を得たことで、そういった催しをすることで当施設との関わりのきっかけが持てるのではないかと考えます。

■こんな取り組みあがるといいなと思うこと

- 病気や病状について、地域の方の理解を深められるといいと思います。
- 秘密厳守の中、認知症などの方への理解（家人の理解が得られ、情報が提供できれば良いのですが。）

【福祉推進員】

■課題

- 1 若い方と年配の方の助け合いが少ない。年配者同士の助け合いとなっている。サロンなど現役世代は参加できない。現役世代のかかわり方がイメージできない。
- 2 独居の方が居られるけど、おせっかいと思われると思うと声がかげづらい。話のしたい時や話したくない時もあるのではないかな。
- 3 人と人のつながりが少なくなった。
- 4 地域ボランティアの減少をつくづく感じます。どうすれば参加してもらえるか。
- 5 自分の役割がわからない。いくつまで車の運転ができるかな。車が無いと買い物にも行けない。
- 6 移住してきてくださった方が仲良く打ち解けてもらうにはどうすればいいのか。これから独居が増えていきそうだが、お互いの見守り助け合いは、ますます必要。
- 7 以前は同居もしくは隣に暮らしていたわけですが、最近では、少し離れたところに新しく家を建てて暮らす人が増えてきた。古い家に高齢者が一人暮らしをしておられるとき、独居を見直すのが悩ましいところです。

■どんなことができればいいか

- 1 サロン、健康体操などは任せておいて、電球交換、除雪などの仕事はできるのではないかな。
- 2 元気にしておられるか、外に出られた時に挨拶を交わす程度の緩い付き合いがいいかも。
- 3 人が集まる行事が出来ていない。
- 5 自治会との共通理解。代行サービスなどできればいい。
- 6 年齢が高くなり、家にいる人が外へ出なくなるので、見守りあいや隣りどうしのつながりあいなど、いろいろ考えます。

■自治会で取り組みそうなこと

- 1 声掛けや総出の時に発信していきたい。
- 3 メンバーとしてなら参加してもよい

【自治会長】

■課題

- 1 独居老人と言われる人が増えている。
- 2 過疎化が進み、空き家が目立つようになってきた。若い人が住まない。出かける足がない。自治会役員さんもルーティンでしておられる。
- 3 当初予定していなかった大きな事業を進めなくてはならなくなり、しっかり進めていけるか不安である。地震等の災害時実際にまともに計画している通り活動できるか。訓練は毎年やっているがいざ本番では動けないと思う。

4 当自治会でも、高齢化に伴い、高齢者世帯や独居の高齢者が増えてきました。見守り活動をしてい
ますが、日々の仕事などでなかなか関わりを持つことが少ないです。

■どんなことができればいいか

- 1 認知症がある方への見守り活動の推進。
- 2 お寺の行事など少なくする。必要最小限だけに簡略化を進める。昔のしきたりにこだわらない。
- 3 やる気があるかないか。強引にでも進めていかないと前には進まない。災害時はまず、自分の身の確保をしないと外にも気も回らない。
- 4 福祉推進員さんの協力をしてもらってサロンなどを開いて、高齢者とのかかわりを持つことが大事だと思えます。

■自治会で取り組みそうなこと

- 1 見守りを取り組もうと思ったが、困難であることが判明した。ただ、会議打ち合わせでの話をする
ことが大切だと思う。人それぞれに価値観が違うので、どのように共有化するかについて、会合の
場を用意する。
- 3 いろいろと案はあるが、一人では取り組めず、メンバーは必要になる。人のためと思わず、自分の
ためと思ってとのことが頭に残っています。
- 4 自治会で、防災避難訓練を行っています。その時は高齢者の方に声をかけて、安否を確認していま
す。自然災害がいつおこるかかわからないので、一人暮らしの方には担当者が声をかけ、常に安否を
確認できるよう、これまで以上に取り組んでいきたいと思えます。

【民生委員児童委員】

■課題

- 1 災害時の対応がしっかりできるか心配。近所の人顔、名前はわかるが、離れた家の人はわからな
いのが実情です。
- 2 地域の間関係が薄くなっている。空き家が増えている。顔は知っているが、どこの家かわからな
い。
- 3 空き家が増えて、草が生えて家も崩れてきている。近所の家にも迷惑がかかるので、何とかならな
いか。
- 4 地域の中ではあるが、人に迷惑をかけないという思いがある。自分の家の恥になると思われるのか
もしれないが、自分はこうであるという意識が低い。自治会自体でも委員する人が家で決まるよう
なところがあり、する人の隔たりがありすぎる。
- 5 高齢者のみのお宅でご主人が健康不良。車いす生活。介護が必要。奥さんの支援をどうするのか。
- 6 無関心、無視、無理解、無責任。

■どんなことができればいいか

- 1 自治会内のコミュニケーションを高める。避難支援の促進。
- 2 地域の中でちょっとした催しを行ったり、懇親会や食事会などを行ったりして、親密になりたい。

自治会で清掃などはあるが、なかなかお互いを知る機会にはならない。

4 どうしたらいいのかわからない。

5 周辺住への課題の周知と不安解決の方法を、自治会内での今日の見守りのような役の人間が把握しておくこと。

6 全年齢での交流。

■自治会で取り組みそうなこと

1 交流会の提案

2 サロンのようなお茶会のような気軽なつどいを年齢に関係なく行う。

3 空き家対策は、利用できれば利用し、利用できなければ解体できればいいと思う。難しいらしいが、除草ぐらいは役員（自治会、民生、福祉委員）でしたらいいのではないか。

3 独居の方に声掛け、おすそ分け。

4 民生委員としての動きを、取り組みたい。

5 自分でできることがあったらしたい。

6 地域での楽しみごとを復活させる。

【高月中学校 TSK アンケート】

■高月町をより良くするために何をすればよいか

- ・ 地域の人と交流の場を増やす
- ・ 誰でも気軽にあいさつできる環境を作る
- ・ 生徒と地域の人と一緒にできる活動や、ここにはこんな人が住んでいるなどか地域での交流を増やした方がいいと思う
- ・ 地域活動にもっと積極的に参加する
- ・ 高月の文化を知って伝える
- ・ 少子化問題を改善する。交流できる場所を増やす
- ・ 地域の子どもから高齢者まで楽しめるイベントを計画する

基本目標2：思いやりでつなぐ居場所づくり

【福祉団体】【福祉事業所】

■課題

- ・ ここ数年のコロナ禍で高齢者の方の生活の中での活動量の低下を感じます。外へ出たいけど、出られない方や、段々と出るのがめんどろになってしまわれている方も少なくありません。又、そういった事で高齢者と地域との隔たりができていのように感じます。コロナが落ちつきつつある中で地域生活の活性化が必要と考えます。
- ・ ひとり暮らし高齢者の地域での話し相手や交流の場。
- ・ 自治会活動には参加したいが、利用料の実情を考えると、スタッフの負担大になるので、参加できないのが正直なところ。

■地域と連携して取り組みたいこと

- ・見守り活動、認知症啓発、介護予防や居場所づくりなど
- ・サロンへの出前で脳トレやレクや体操など普段デイでしていることを地域で実施。

■こんな取り組みがあるといいなと思うこと

- ・過疎化や限界集落の社会資源を増やしてほしい。例えば病院通院時の移送タクシー代の補助制度。
- ・高齢男性の料理教室（一週間分の献立をたて、簡単な調理が出来るように）
少し元気な人は自分で作った野菜を使えるともっとよい
- ・買い物（自分で行ける人、平和堂の宅配サポートを利用する人、生協を利用する人）支援には色々なパターンの人がいる。一律にはいかない。
- ・看取りの啓発 在宅看取りの体制づくり。
- ・長浜市にはデマンドタクシーがありますが、停留所までの移動も大変な方もあるので、臨機応変な対応をしていただけたらもう少し利用がしやすくなるのではと思います。
- ・グループホームを利用している人でも、時々気分を変えたり、環境を変えたりできるように、ショートステイも併用できるようになってくれたら嬉しい（入所施設や違うホーム等に）
- ・高齢になり免許返納することで、移動手段が必要になる。デマンドタクシーでは、認知症の人は使いこなせず、買い物、受診などの生活手段はもちろん、最初に趣味活動や生きがい活動への参加が難しくなる。介護予防、認知症の進行予防には今までのつながりが必要と思うが、参加する手段の確保をどうするか。仲間の認知症への理解があれば、一緒に乗り合わせて参加できるかもしれない。
- ・普段はお泊りサービスなど必要なくても何らかの急なことで泊りのサービスが必要な場合が生じます。特に休日はどこの施設も対応が難しいため、地域での見守り、訪問体制や緊急、休日対応ができる施設があればと思います。
- ・デマンドタクシー（自宅から目的地まで）。在宅介護者の集いへの送迎が無く参加できない。開催場所も遠い。買い物ツアー（送迎して平和堂まで相乗りで連れて行ってもらえる）システム。

【福祉推進員】

■課題

- 1 自分が推進員にふさわしい人間かどうか心配になった。でも、山岡さんの話を聞いて、自分なりにキャパオーバーにならないようにすればいいんだと思って安心しました。そして、楽しいことが一番大切だと思いました。
- 2 3年ぶりのことなので、どのような形ですればいいのか。
- 3 負担感。地域のつながりが無い。情報が無い。防災などで個人情報かわからない。点呼など正確でないと思う。
- 4 高齢者で一人暮らしの人が増えてきている。高齢化に伴い、健康に不安を持つ人が増えてきている。都市型コミュニケーションで連帯感が低い。
- 5 今は、福祉が活発に行われていますが、これからどうなるのか。若い人の生き方を考えたり、見たりしていると不安です。若い人のことを高齢者の私たちが考えないといけない。
- 6 高齢者の介護。

■どんなことができればいいか

- 1 地域での心配事。男性高齢者の独居の方が数人おられる。今は大丈夫だと思うが、今後自動車に乗れなくなった徳、どうされるか心配。買い物宅配サービス、デマンドタクシーサービスを紹介する
- 2 楽しくなればいいと思っています。
- 3 協力。話し合い。コミュニケーション会議。
- 4 見守り活動。転倒予防教室。体操の実施。
- 5 もっとみんなが集まれる場所を作る。コロナで運動会、法事など集まる場所、しゃべれるところがないのでほとんどわからない。
- 6 デイサービス、ショートステイの利用。

■自治会で取り組みそうなこと

- 1 近所であれば、総菜のおすそ分けや、何か買ってきましようかとの声掛けくらいならできる。自治会としては。
- 2 声掛けなど努力していきたい。具体的には考えていない。
- 3 協力。情報交換。一つ一つクリアしていく。
- 4 老人会での活動として実施。
- 5 見守り活動。畑などでしゃべる。若い人に聞く。
- 6 声掛け

【自治会長】

■課題

- ・高齢者の一人暮らしの人が増えている。日常生活や急な病気等の対応、対策が出来ていない人がいるのではないかと思う。

■どんなことができればいいか

- ・普段のつきあいが大切だと思う。顔を合わす機会があまりないので、なにかした方が良くと思う。

■自治会で取り組みそうなこと

- ・サロンに参加、その他。

【民生委員児童委員】

■課題

- ・認知症の人が増えてきている。

■どんなことができればいいか

- ・本人の家に言って話すことができない。

■自治会で取り組みそうなこと

- ・高齢者が多くなってきて、家に二人暮らしが多くなってきて、家の中で話が少なくなってきて、孤立が多くなってきているようです。サロンをすることで、多くの方が集まって話すことで、認知を少しでも少なくできたらよいと思います。

【高月中学校 TSK アンケート】

■高月町をより良くするために何をすればよいか

- 独居老人の支援など
- 外食をするところが少ない
- もっと多くのコンビニを設ければよいと思う
- もっと遊ぶ場所を作ってほしい
- 本屋さんを誘致してほしい。
-

基本目標3：地域で支える見守り活動

【福祉団体】

■こんな取り組みあがるといいなと思うこと

- 犯罪情勢は、検挙されるものの約半数が再犯者であること、この背景には貧困や疾病、嗜好、しょうがい、厳しい成育環境など様々な生きづらさを抱える者も少なくありません。また、罪を犯した高齢者・しょうがい者の中には、多岐にわたる福祉的支援を必要としている人がおり、福祉的支援があれば再犯に陥らず社会参加を目指せる人がいます。刑事司法関係者のみの取り組みを超えた市や福祉関係者、民間協力者等が一丸となった息長い支援についての協議会が必要となってくる。

【福祉事業所】

■課題

- 要支援1.2の介護度の低い方に対して、状態がよくなってきたときに地域の集いの場や次のつなぎの場所がなかなか見つからないことに困っています。
- 介護保険では賄いきれない課題（移動手段、見守り体制、家庭内の課題等）が多く、ボランティア頼りの部分も多い事。
- 地域によっては、独居や高齢世帯の方が暮らすうえで車がないと生活自体が成り立たないところもあり、介護保険制度を利用されている人よりも利用されていない人の方が、必要なサービスに繋がっていないように感じます。
- 高齢者夫婦や独居世帯が多く、支援者がおられないか、おられても遠方である。
- 透析の送迎、ゴミ出し等の曜日や時間が決まった事に対する地域の支援者
- 買物する場所が地域に少ない。介護サービスも事業所が少なく、事業所を利用者の希望通り選択する事が出来ない。町内バスが走っているが利便性が悪い。・高齢者の移動手段は課題だと思います。
- ひとり暮らしや高齢者世帯も多く、在宅での生活が十分支援しきれない。
- コロナ禍になり、国の言う地域包括システムの主旨は理解できるが、現状は益々後退しています。
- 在宅での生活でデイサービスなどは大きな役割を担っていると思います。
- 誰かが何とかしてくれるのではなく個人の防災意識を高める必要がある

- 高齢者世帯が多く有事の際に避難が困難、避難の際の移動手段が地域で話し合われていない
- 冬期や、水害等、災害時には交通の中断もあり利用者の安否が確認できにくいこともある。
- 高齢者、障害者に対する地域の理解不足
- 高齢化が進みキーパーソンの不在の家族が多い。
- 高齢者世帯の老々介護
- 8050 問題や多問題家族など、同居世帯が多いことで、高齢者だけの相談対応では解決しないケースが多いと感じる。
- コロナウイルス感染症が流行して 3 年が経過しました。私達の生活も一変し、利用者の生活も多方向で一変しました。特に認知症の方は地域の中で今までどおりの生活を続けることが大変なように感じます。長浜は認知症の方に優しい町でしょうか？認知症の方が住み慣れた地域で、自宅での自立生活が続けられるためには、近隣の協力なくては実現できません。一層の認知症理解が進められるようお願いしたいと思います。

■地域との連携で取り組みたいこと

- 地域に出向き、介護保険や認知症の理解について、顔の見える関係を作りたい。
- 介護になる前の方や、介護を行っている家族の方に対する相談の場、情報発信をする場を持つことができるとういことを考えています。
- 湖北地域は高齢化率が高い。ひとり暮らしをしている高齢者の見守りや空き家の状況確認を作業所の仕事として位置づけられないか。
- 高齢分野以外にしょうがい分野への支援に力を入れたいと思っています。
- 日常生活で困った時気楽に相談できる場所づくり。

- 出前講座も積極的にうけていき、地域の中で知ってもらえるきっかけがつかれるとよい。
- 現在、縁満プロジェクトとして多機関が共同でカフェを月一で開催しています。対象エリアが高月町に限定されています。どこの事業所も人員に余裕がない中、負担を分担し開催していますが、参加者数が増えるにつれ対応が難しくなると思いますので、協力事業所を増やし今後も継続していきたいと思っています。カフェは、運動メインとなっていますが、災害時の対応や認知症のことなど発信しているのでそちらも継続していきたいと思っています。
- 送迎車両等を利用した、地元高齢者等のコミュニティーバス構想。
- 事業所で農業を始める場合の農業指導を地元高齢者をお願いしたい。

■こんな取り組みがあるといいなと思うこと

- ほのぼのホールを活用し、慣れ親しんだ場所で介護が必要になったときにあそこへ行けばあの人がいて、何とか何かにつなげてもらえて、デイサービスも利用してもらえる仕組みづくり。
- ほのぼのホール利用者・活用者との交流ができるサービスづくり
- 花壇などもっときれいにしていつでもひなたぼっこができてセンター利用者とデイ利用者の談話の場所づくり。
- 患者会や家族の介護の会の様な交流
- 幅広い年齢層の地域住民の交流の場
- 各地域に気軽に立ち寄れるサロンを作る。(高齢者だけでなく、全世代の地域住民の利用が可能)

⇒食堂や遊べる物、図書、ジム等も併設されている複合施設。将来的に医療相談などもできるようになれば、より各地域が身近に、又、同じ地域の方を知る場所となり、希薄になりつつある地域住民同士のつながりの場としての役割。

【福祉推進員】

■課題

- 1 今はないが自分たちの世代が高齢となった場合、次の世代が今のレベルを維持できるのか。
- 2 認知症の方の徘徊。高齢者の独居。自分が高齢になったときの対処の仕方。
- 3 高齢独居者の生活状況の具合。
- 4 高齢化によりスタッフ不足。
- 5 お隣の方との交流が無くなったように思います。昔は、調味料等が無いと借りに行ったり、気楽にできたと思いますが、これもコロナ禍が長かったためでしょうか。
- 6 親せきの方で奥さんが認知症で、ご主人と二人暮らし。ご主人は元気でボランティア等されているが、お世話や食事のことなど心配です。時々、手作りのものを持参したりすることもあります。
- 7 いのちのバトンの更新ができていない。自治会長の交代時、申し送りが出来ているか疑問です。いつまでも自分の足で歩けるようにウォーキングを始めた。

■どんなことができればいいか

- 1 押し付けしない。自発的になるまで待つ。
- 2 認知症の方の把握。認知症を持つ家族の公表などがあればと思う。
- 3 定期、不定期の声掛け。
- 4 人不足。ボランティア精神。
- 6 今までは、頑なに社協さん等にお世話になることを拒んでいらっしゃいましたが、最近奥様の足が悪くなられたので、包括支援センターへの支援を希望されているようで、どうかつながっていただければと思います。

■自治会で取り組みそうなこと

- 1 時間をかけるしかないかな。
- 2 独居の方の安否確認。自治会で高齢者や独居の方の状況を把握してマップを作ってもらおう。
- 4 自分一人できる範囲は限られている。皆さんの協力が必要である。自治会と協力していない。いのちのバトンの取り組み。
- 5 お互い見守り、支えあうことはできると思います。
- 6 防災マップの見直し。お助けマップの取り組み。

【自治会長】

■課題

- 1 単身者の方で災害時等の対応は、少しずつ進めているが。
- 2 高齢者の独居世帯だけでなく、家族はいるが昼間高齢者が一人になる世帯をつかみ切れていない。個人情報保護の点から、情報が入ってこない。40代以下の単身者が増えている。

■どんなことができればいいか

- 1 見守りの人を依頼していく。
- 2 近所の人やご友人が出来るだけ情報を持つようにしている。福祉委員だけでなく、自治会役員もできるだけ訪問する。

■自治会で取り組みそうなこと

- 1 上記のことを進めていき、不安事項を減らしていく。
- 2 サロン活動だけでなく、子ども会と合同で活動していけばと思う。

【民生委員児童委員】

■課題

- 1 仕事しながら、なかなか情報を得る機会が少ない。サロンがあっても、出勤日の情報が先に決まっているため、重なると参加できないことが多い。自治会内のことを良く知らなかったということを感じています。母屋はわかっている、別棟で高齢者が暮らされているとどの家かわからない。お名前とお顔が一致していない方がまだたくさんいます。
- 2 地域、担当地区の問題、困りごとなどが見えない。地域の人と積極的に会話などすることでわかってくかと思うが、十分に聞き取れない。聞き取り方がわからない。いつも特定の人に聞くこととなる。外に出て散歩している人と話すだけになる。わざわざ玄関開けて会うのに抵抗があるが、そこに行きたいときはどうすればいいか。小耳にはさんだ内容を突き詰めていくと、結構大変な問題だったとなることがありそう。民生委員はそこまで入ってはいけないと思えるがどうなのか。
- 3 少子高齢化の問題＝この委員になって現実に目の当たりにして、今後どのように一人暮らしの方々に見守り支援をしていけばよいか、とても心配している。ますます増えてくると同時に高齢化も進むので、様々な関係機関と連携の必要性を感じる。
- 4 見守り対象者全員が把握できているか心配。また、福祉推進員、自治会役員との情報共有化が出来ていない。高齢者に対し、支援が平等でないような気がします。
- 5 災害時の支援など、支援の必要な人の把握が出来ていない。

■どんなことができればいいか

- 2 積極的に外にいる人を見つけて、民生委員証を見せて安心して聞けるようにする。集まってくれではなく、こっちから出向くしかないように思う。
- 3 まず、実態をしっかり把握すること。今日の東物部の取り組みを聞いてとても参考になった。マップのように色分けすることで視覚にも訴えて動きやすいし、また連携もしやすいと思う。
- 4 社協担当者に来ていただき、見守りマップの指導を受け、自治会が情報のまとめを推進中です。自治会役員が交代するごとに、見守りマップの更新が出来ればいいと思います。見守りマップに基づき、年一回高齢者訪問が出来ればと思います。
- 5 いのちのバトンやお助けマップの作成が出来ればいい。

■自治会で取り組みそうなこと

- 2 自転車の乗ってうろうろして変化を捕らまえる。
- 3 福祉推進員さん、自治会役員の方々との密な話しあいと連携を改めて強く感じた。
- 4 第3期計画は、見守りマップの最新版の更新ができる仕組みを作ってほしい。本日の報告は大変参考になりました。
- 5 自治会や福祉委員に働きかけていく。お助けマップの作製は出来そうである。

【高月中学校 TSK アンケート】

■高月町をより良くするために何をすればよいか

- ・ゴミの落ちていているところがあるのでみんなでゴミ拾いをしたらいいと思う
- ・自然や環境を壊さない。自然を大切にする
- ・地域の人みんなで取り組める活動を作る
- ・高月の歴史を伝えていく
- ・花植えや美化活動など街を守る活動をする
- ・

基本目標4：活動を支える仕組みづくり

【福祉団体】

■課題

- ・自治会が主体であり、対象者となる住民も多く、周知が難しく、何処にどんな方が居られるのか把握が難しい。

■地域との連携で取り組みたいこと

- ・ここ10年ぐらいは犯罪件数も激減し、現時点では保護観察と生活環境調査もそれぞれ2件という少数で、ありがたい状況である。このことは地域が安定していると考えられる。

■こんな取り組みあがるといいなと思うこと

- ・スマホを活用してひとり暮らしや高齢者世帯がグループ LINE でつながり、社協等から安否確認や情報が発出したり双方向の連絡ができるかも。
- ・高月町には、地域づくり協議会、社会福祉協議会、老人クラブ連合会、赤十字奉仕団、NPO 法人花と観音の里等があります。それぞれが単独で活動するのではなく一つになって出来る事をする事で「誰もが安心して地域で暮らす」ことが出来ると思うのでそんな取り組みが出来れば…。

【福祉事業所】

■課題

- スタッフがいないため会員がスタッフの仕事をしています。
- 女性の方が多く、男性も参加できるようなことをしたい。
- いつも参加されていた方と連絡がとれずひとり暮らしのため、心配したことがあった。
- 毎日、どうやって楽しんでもらうか、考えるのが大変です。
- 男性会員さんの参加が少ない。コロナ禍で以前行われていた様な催しができなかったのが残念！！
- コロナが5類となり制限解除となるがコロナ前のようにサロン開催ができるか不安。参加者が決まってしまうので、出不精の人の参加をどのように誘ったらいいかわからない。
- 新しい参加者、次の世代の方が参加されない。
- デイサービス事業と当センターほのぼのホールとの連携、双方の活用の仕方
- 事業所として、支えるべき地域の方はたくさんおられ、サービスを利用しながらなるべく地域で過ごすことができる期間を延ばしたいと考えていますが、人口流出によりそのサービスの担い手である介護職員の確保が大きな課題となっています。
- 地域の担い手も都市部（旧長浜や他の市）に流出しており、地域の活動も特定の人に負担がかたよっているのではないかと考えられます。このことが、若い世代には受け入れ難く、人口の流出に繋がっていくのではないかと考えられます。
- 地域の人口減少と高齢化の進行は、事業を継続していく上でも従業員の高齢化や人手不足となって顕在化している。地域で介護の担い手が減っていく事への危惧がある。他方、介護保険制度スタート時点とは社会構造や家族構造も変化し、単身世帯の増加や家族の介護力不足により、介護の主体をサービス事業所が担わなければならないケースも増えて来ている。あくまでも介護保険制度は在宅介護を補完する為の制度であり、その様な世帯の増加は在宅介護の行き詰まりを示す。地域の住民が我が事として関わる必要がある。
- ホーム以上、一人暮らし未達の半自立型ホームがもっと増えると、自立度の高い人にとっては選択肢が増えて良いと思う。
- しょうがいヘルパー事業所、相談支援事業所がもっと増えてほしい（相談支援専門員が付けられない人が居たので）。
- 当事業所は、日中活動の場（労働提供）を保障して成長発達を促してきました。親の高齢化並びに障害のある人たちの暮らしの貧困解消をめざして当福祉法人はグループホーム2ヶ所（定員8名ずつ）を開設しました。でもこの2ヶ所だけで対応できない利用者が出てきました。これは当法人だけで解決できる問題ではありません。他の法人（事業体）との連携を考える必要があります。また地域住民の理解をすすめつつ、グループホームのあり方を考えてほしい（グループホームの開設やスタッフの確保）。
- 高齢世帯やひとり暮らしの方が多い
- 介護サービスが心置きなく利用でき、周囲を気にせず利用していただきたい。
- 在宅で生活するという事が難しくなって、施設志向が多くなってきていると思います。しかし、それが悪い事でもないし、それはそれでよいと思います。

■地域との連携で取り組みたいこと

- 日頃から地域の民生委員や福祉委員とのつながりが持てる関係づくりをしていきたい。
- ひとり暮らしや高齢世帯の方に対するの支援や見守りなど地域との連携を図れる仕組みづくり。
- 緊急時、災害時の連携。
- 防災訓練（毎年参加してます）における要介護者への対応について助言する。
- 緊急時の協力 AED 等備品の貸し出しや人的協力。
- 地域の民生委員さんとの交流を持ちたいと思います。また、災害時の連携に対しても取り組みたいと思います。
- 大きな災害が発生した場合、災害対応する本部がどこになるのか情報共有。
- 災害時等の連絡網の把握、地域との交流もできればよい。
- 南海トラフ地震が想定されるなか、当施設においても相応の被害が想定されます。そうしたなか、地域の協力が不可欠であり、緊急時の連携を進めたいと考えています。
- 圏域地域包括と連携をして災害時のBCP（災害時事業継続計画）に取り組みんでいるところです。
- 避難支援が必要な利用者を地域が把握できるよう包括が主となって情報発信の場を設けて欲しい。
- 発災時には自分の身は自分で守るという意識を持てるよう日頃からの心構え、準備物など個人の防災力を高めるための情報発信。

■こんな取り組みあがるといいなと思うこと

- 福祉課題も災害においても、まずは「自助」であり「互助」が重要である。その為の地域住民の意識改革が必要であり、その為の啓発活動を積極的に行なって欲しい。
- 広範囲での仕組みを検討するよりも、エリアを限定してその課題解決に協力してもらえる事業者を募り検討する仕組みがあれば良いかと思います。また、介護事業所においては、厳しい配置基準が定められており、地域貢献活動に人員を割くことが難しい場合もあります。そのあたりの基準緩和がされれば協力者も得やすく仕組み作りも進めやすいのかもしれない。
- 土日祝日に問題が発生した場合、すぐに相談をもちこめる機関（場所）
- 困り事の何もかもが、ケアマネや民生委員等に負担がかからない様な仕組みになるとありがたい。
- 各制度を超えた総合的に相談ができる窓口の設置。相談後、たらい回しにならない体制の構築。
- 支援が必要な高齢者、しょうがい者を地域が把握する
- 地元のコミュニティを当事業所中心でついたり、地元の経済を当事業所が一部担うようになれば、しょうがいをもった人が社会からの偏見や差別に怯えることなくその人らしく豊かに生きて行けるのではないかと、漠然と思っています。
- 防犯情報の共有
- 地域の事故、事件など速報の配信
- 少子高齢化の進展により、介護業界のみならず、地域の産業会において人材不足は顕著です。例えば、社会福祉法人の大規模化や連携法人を推進しても対処療法にしかならず、根本的な課題解決とはなりません。社会福祉法人の多角化による収益力の強化で、介護人材の処遇改善が必要かとおもいます。複数の異業種事業体と連携できる仕組みはできないでしょうか

【福祉推進員】

■課題

- 1 ご多分に漏れず、過疎と人口減少が進み、十数年後には、自治会の存続が危ぶまれる状況です。コミュニティを支える人がいなくなるのではと気がかりです。
- 2 最近自治体の世帯が増え、交通量も多く、歩行している人が危険と感ずることがあります。年齢の増した人は、手押し車や道の中央を歩きがちなので、安全に歩けるようになればと思います。
- 3 自治区、自治会委員任期1年、サロン開催年6回、年初に計画、サロン実施、福祉委員一人で担っている。サロン開催が×な業務、心配事⇒フィードバック方法⇒現状なし⇒自治会との協議。
- 4 住民の高齢化により、自治会活動がやりにくくなっている。
- 5 地域での出ごとが若い人には、理解してもらえない。この先、だんだん独居老人が多くなると思うが、家や土地の保全が追い付かなくなるかも。
- 6 今日の研修でも話があった様に、活動に参画する人が減っていることが大きな課題だと思います。
- 7 福祉委員会の組織がないので、いざ災害が起こった時に福祉委員としてうまく動けるか不安です。
- 8 自治会の中で福祉推進員としての役割や業務が明確でなく、自治会が福祉について一体となった取り組みが出来ていない。全体の情報共有が出来ていない。
- 9 水害等の場合、救えない人がいるのではないかと。毎年の防災訓練だけでは不安である。

■どんなことができればいいか

- 1 これまでの自治会のシステム、伝統文化などを総点検して、今後を見通した変化を考えていければと思います。持続可能な見地での。
- 2 村内の道路はすべて、制限速度を一定にして、周知するべきかなとは思っています。
- 3 自治会の後援体制。福祉委員の増員検討。
- 4 若い人の自治会への参加。
- 6 自治会の中で、福祉推進員の位置づけを明確にし、協力的に活動することが大事だと思います。
- 7 発表された東物部自治会を参考に先ず、組織を作り活動を進めたい。
- 9 福祉委員会などを立ち上げて、個別の支援計画を作ってほしい。日ごろからの見守り活動を進めてもらいたい。

■自治会で取り組めそうなこと

- 1 ただいま、自治会内に検討会議を立ち上げて協議しています。
- 2 わかりません。すでに自治会では、いろいろ看板や道路に標示書きはありますが、十分ではない。
- 3 自身勉強不足。福祉について考えてみたい。
- 4 若い人への呼びかけ
- 5 自分の専門的なことをほかの人にもお誘いしたりして、仲間を増やしたい。
- 6 何をすればわからないと感じている人も多いと思うので、今日のような研修は必要だと思います。自治会と定期的な話しあいの場を持つことも必要かと思っています。
- 7 高齢者や独居老人宅を見守りできる。
- 9 仕組みが出来れば参加したい。数年間連続して取り組める人を自治会で指名して、自治会での位置づけが大事だと思います。

【自治会長】

■課題

- 1 世帯数が少なく、住民もほとんどが60歳以上。高齢者の割合が高い。実際の場面で実質的に活動できる人がいない。高齢者でも見守り活動できると言われるが、現実な難しい。世帯数が多い自治会とは違い活動に制限がある。
- 2 自治会役員の研修会などの参加などで負担が大きい。

■どんなことができればいいか

- 1 福祉活動も制限を受けるが、住民が少なく高齢化が進む。自治会では自治会活動も制限を受けている。資金面、人員面。自治会内では実効性ある活動ができないため、外部からの支援が必要。
- 2 研修会の効率的な開催。平日の夜とか休日のAMとかに開催。休日が一日つぶれてしまうことは避けてほしい。

【民生委員児童委員】

■課題

- 1 三集落の担当の民生委員ですので、当該集落は状況がわかるが他集落はいまいち状況が不明で、初年度中に状況を日々調べることが重要。しかしなかなか奥深くわからない。他集落のよくわかっていてる人の応援をいただいている。
- 2 民生委員児童委員としての活動を模索しながら、自分なりに取り組んでいく方法を悩んでいる。老人クラブのメンバーが年々減少していくので、少しでも多くの方に参加していただくには、どうすればいいかを考えています。
- 3 コロナの影響により、コミュニケーションをする場が減少し、意思疎通、情報把握がいまだに不十分。関係者との連動、協働。

■どんなことができればいいか

- 1 自治会長は若い人が担当され、集落の過去を十分知りえないところがあるために、それなりの年配者をお願いしている。
- 2 自治会の皆さんへのアピールの方法を思案中です。
- 3 定期的な関係者・部署との意見交換会議の実施。改めて、多方面からの情報収集、課題検討、関係改善につなげていきたい

■自治会で取り組みそうなこと

- 1 特に一人暮らしの方の状況（日々の状況）を自治会として常に知っていること。その内容が本当であることが最重要。よく、そうらしいという話が先に走ってしまう。
- 2 地域の中を歩いて見守り、気づいたことから少しでも力になれることをしていけばと考え、行動に移していきたいと思っています。自治会との協力連携を進めて、地位の人たちが住みやすい町づくりをしていけるように取り組みたいと思います。
- 3 見守り活動の充実。除雪応援。自警団組織の活用連携。防災福祉マップの取り組み。

【高月中学校 TSK アンケート】

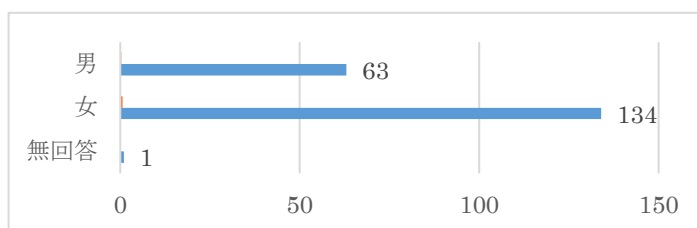
■高月町をより良くするために何をすればよいか

- 地域の方と親しくなるきっかけを作る
- ドッグラン
- バスを増やす 電車の数を増やす
- 高月町が過疎化しつつあるので、町おこしをするといいいと思います
- 有名店を誘致する
- 商業施設を増やす
- 本屋さんを誘致 三洋堂を取り戻す

(5) 一人暮らし・高齢者世帯アンケート集計

【198人/304人 回収率 65.1%】

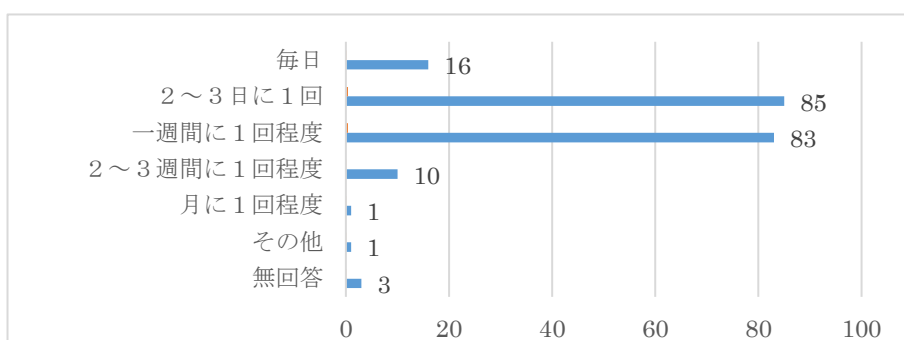
問1 あなたの性別を教えてください



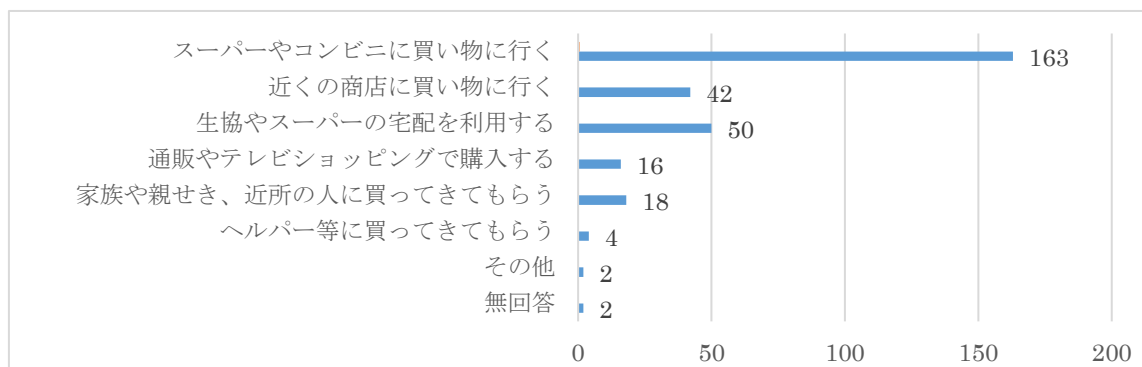
問2 お差支えなければ、あなたのお住まいの自治会を教えてください

(無回答多いため割愛)

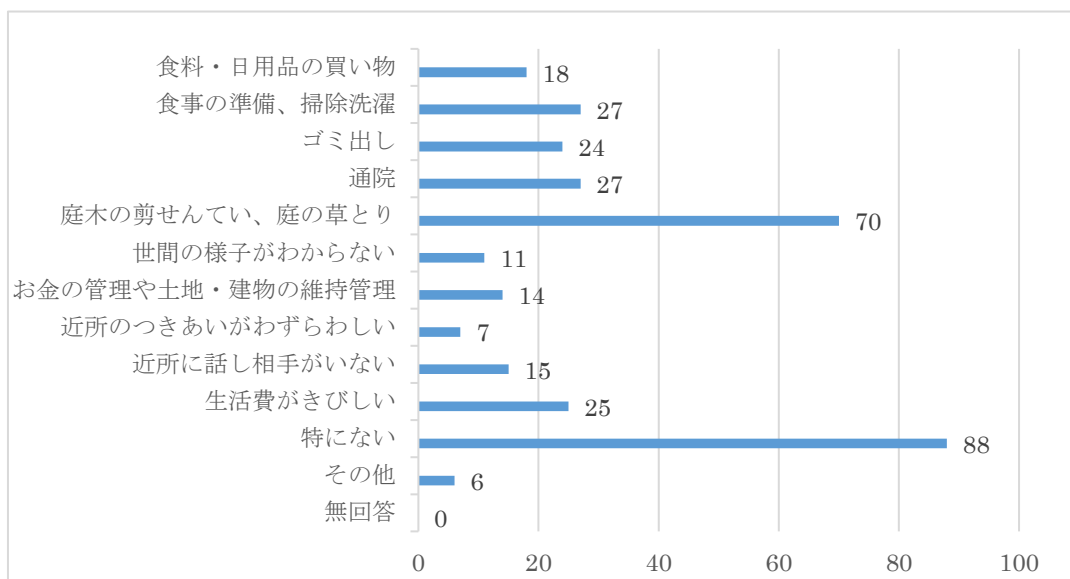
問3 日常生活に必要な買い物は、どれくらいの間隔でしていますか



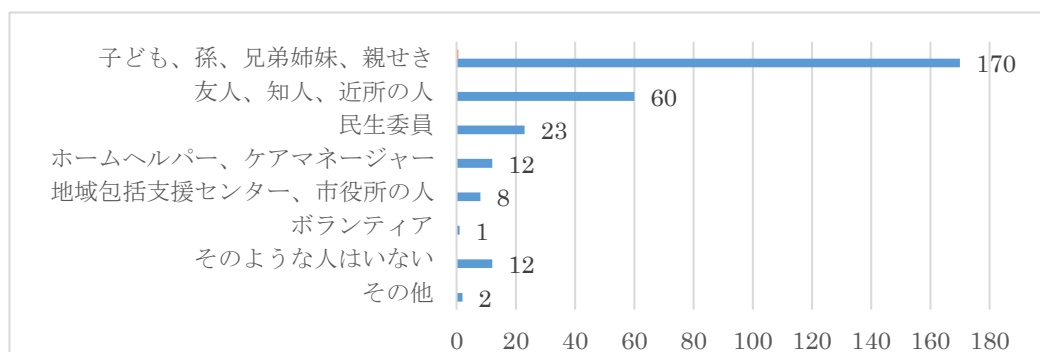
問4 日常生活に必要な買い物はどのようにしていますか (複数回答)



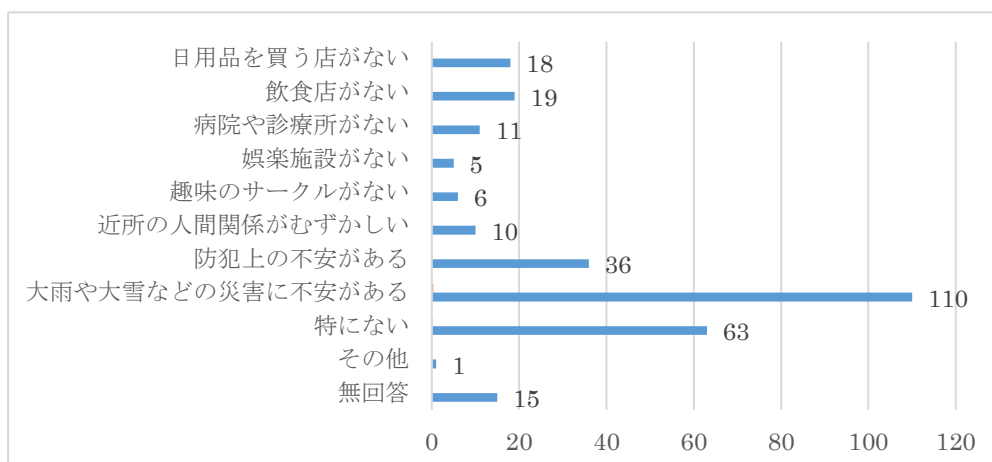
問5 日常生活でお困りのことはありますか（複数回答）



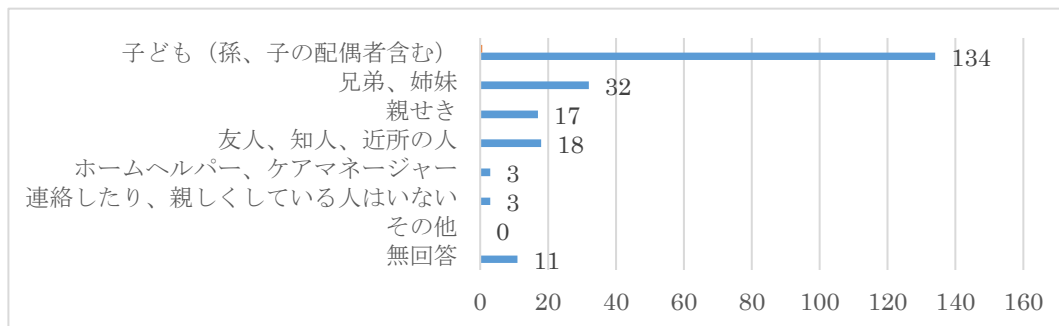
問6 日常生活や病気、ケガの時、誰に助けてもらえますか（複数回答）



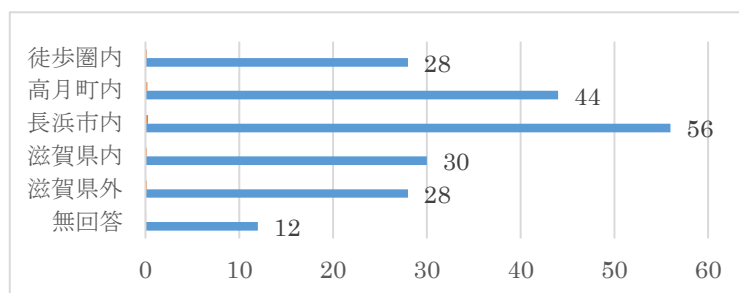
問7 今お住まいの地域で、なにか困りごとはありませんか（複数回答）



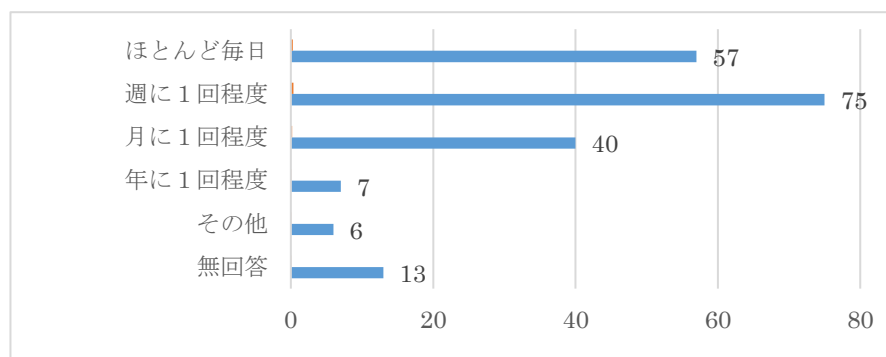
問8 困ったときに相談できる人はどなたですか



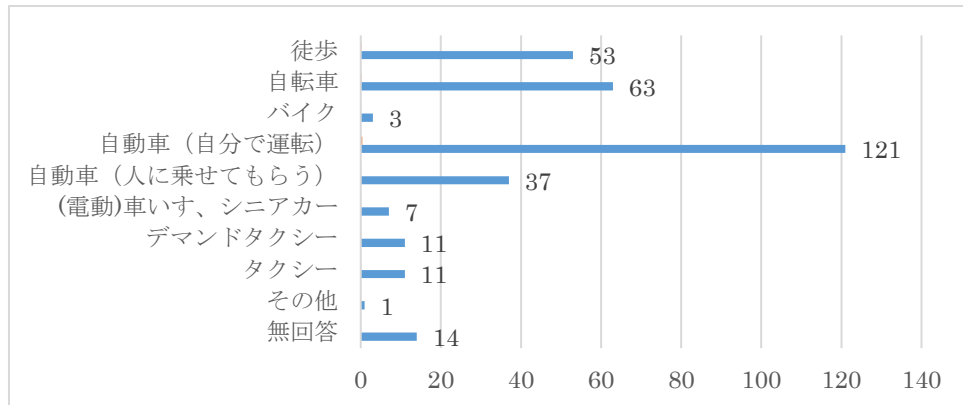
問9 その方はどちらにお住まいですか



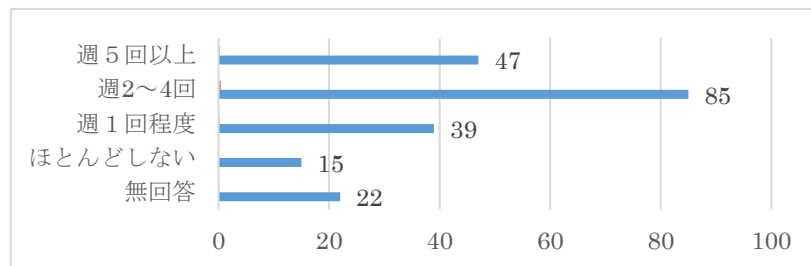
問10 その方とはどれくらいの割合で連絡を取っていますか



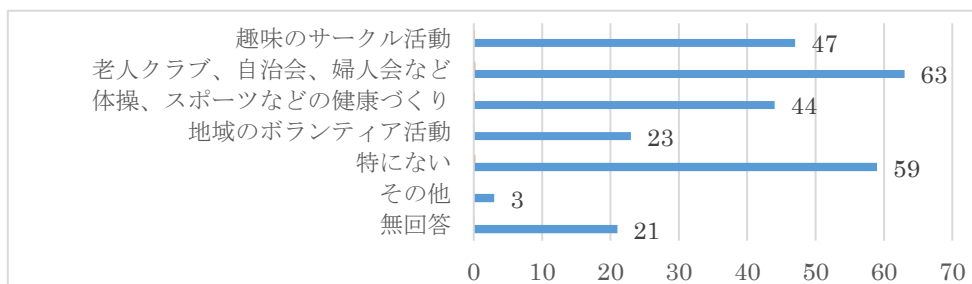
問 11 外出するときの主な移動手段は何ですか（複数回答）



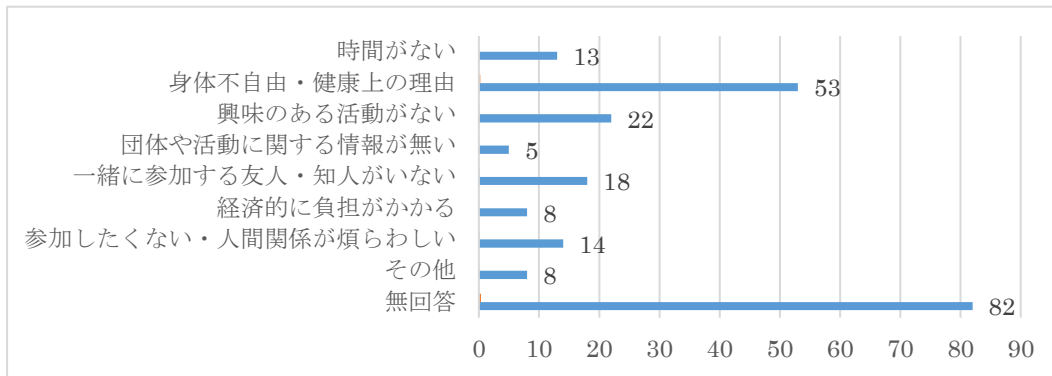
問 12 最近、外出していますか



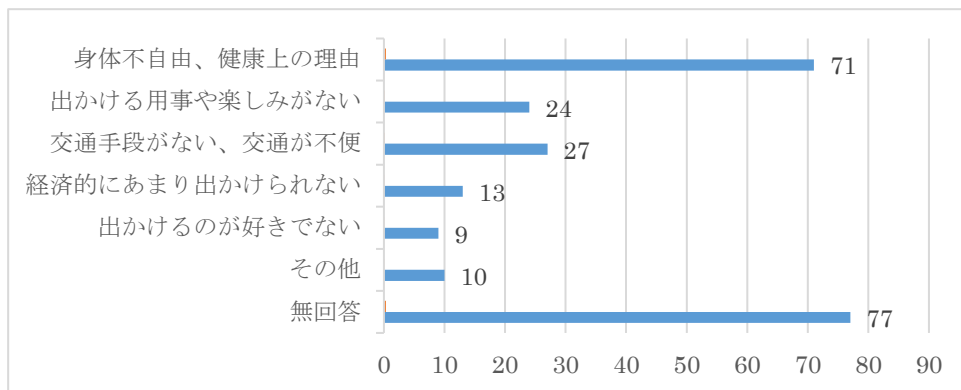
問 13 地域で参加している活動や団体は何ですか（複数回答）



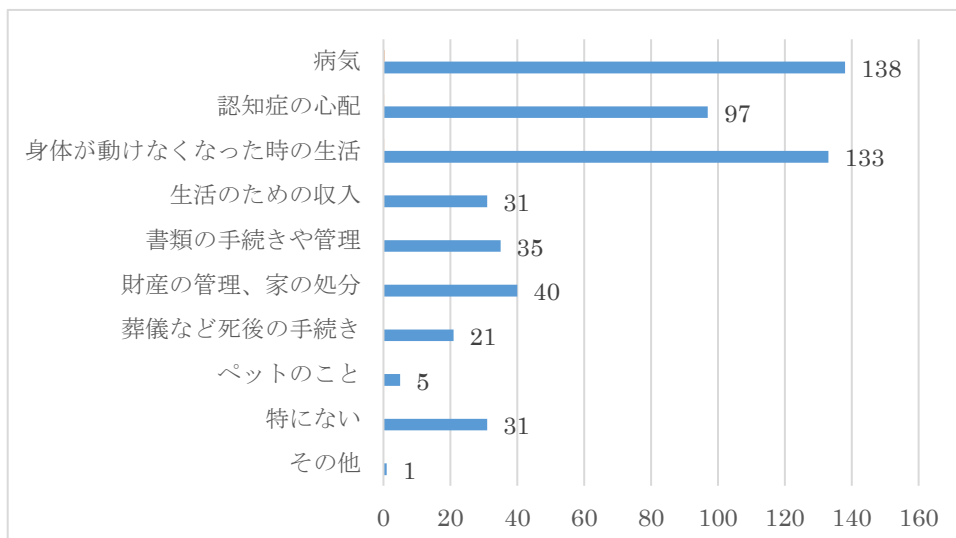
問 14 地域の活動に参加する際参加しにくい理由は何ですか（複数回答）



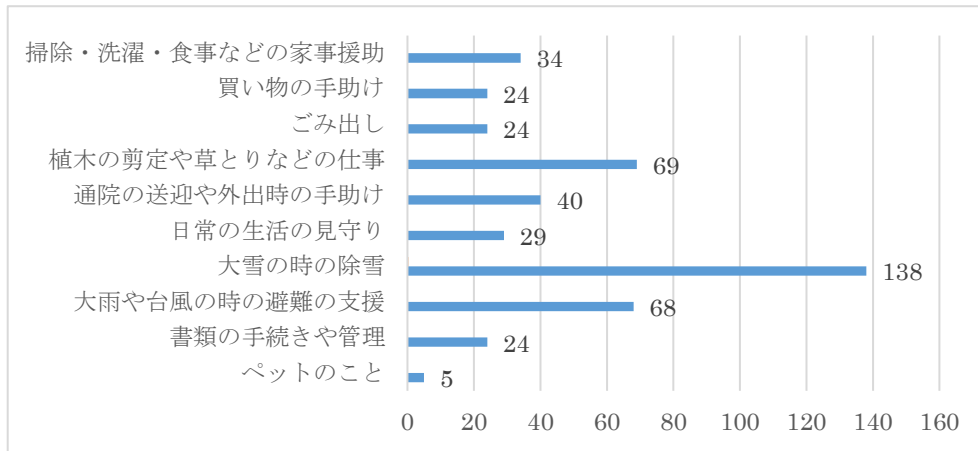
問 15 外出する機会が減ったとするなら、どんな理由からですか（複数回答）



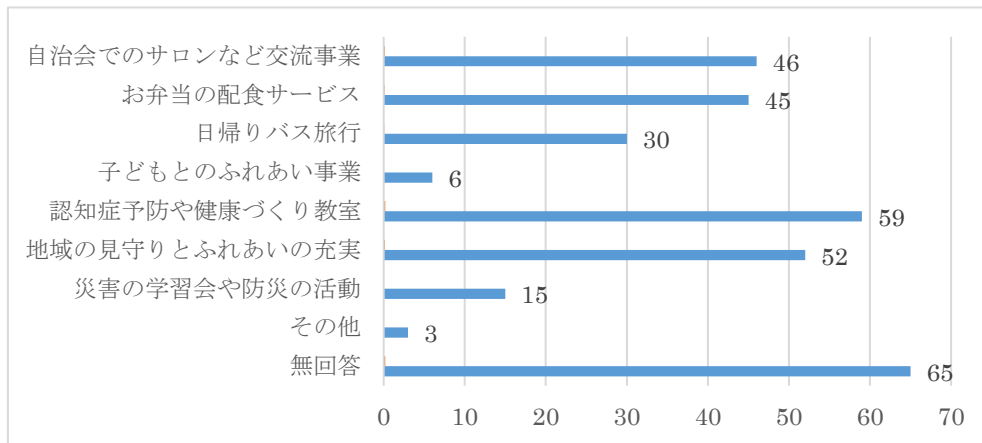
問 16 今後の生活で、不安なことや心配なことは何ですか（複数回答）



問 17 あなたにとって、特に必要と思う支援は何ですか（複数回答）



問 18 明るく楽しく過ごすために、取り組んでほしいことは何ですか（複数回答）



問 19 なんでも結構です。ご意見やご感想、言いたいことなどをお聞かせください。

| | 性別 | 年齢 | 意 見 ・ 感 想 |
|----|----|----|---|
| 1 | 女 | 75 | 年を取って目がみづらくて困る。高齢者夫婦なので、老人会の村でのコミュニケーションを多くしてほしい。 |
| 2 | 女 | 81 | 隣に子猫が4匹生まれて、便や、屋敷に来るので困っている。避妊とかしっかりして飼ってほしいと思います。 |
| 3 | 女 | 82 | 無責任な猫の飼い方をされているので困っています。相手に伝えたいことを、公の場で伝えてほしい（相手に言えないので困っています）。 |
| 4 | 男 | 86 | 現在高齢夫婦で日々日常生活をこなしていますが、何かあったときの対応が心配です。 |
| 5 | 女 | 92 | 老夫婦が毎日安心して暮らせるよう、近くの老人ホームへ入所したいと思います。見学しましたが、介護認定が無いと入所できないし、満室のようです。いいところがあれば教えてください。 |
| 6 | 女 | 69 | 健康でない困ることが多くなるので、食事、運動、睡眠に気をつけて、元気に過ごせるよう心掛けたいと思っています。ひとり住まい高齢者世帯が困ったときのお助けガイドブックのようなものがあれば助かります。 |
| 7 | 女 | 73 | 主人が亡くなってから年金がすごく減ってしまって、家賃をもう少し安くしてもらえるとありがたいです。 |
| 8 | 女 | 74 | 今のところ災害のない高月町ですが、いつ起こるかわかりません（大雨地震）。高月町だけでも訓練を実施してほしいと思います。 |
| 9 | 女 | 77 | 足（車）が無くなれば行動範囲が狭くなります。家の閉じこもりになれば体も悪くなるし、会話もなくなるし、免許を返納した時のことを考えると心配です。 |
| 10 | 女 | 78 | 月2回の弁当。店で営業しているのですごく助かります。おいしいです。朝からホッとしています。 |
| 11 | 女 | 78 | 私の家の近くの道は融雪がなく、大雪になると大変です。皆さんが雪どけをするように、自治会から区民のみなさんをお願いしてもらったらどうでしょう。病人が出て救急車も入ってもらえない。 |
| 12 | 女 | 80 | 主人の介護のため、活動などに参加できません。 |
| 13 | 女 | 80 | 子どもの世話にならないで死ねたら良いと思う。 |
| 14 | 女 | 81 | ごみ出しの時に川にかけてある橋を渡るのが危険。橋がないので危ない。 |
| 15 | 男 | 82 | 長浜市は彦根市に比べて介護保険料が高い。 ゴミ袋が高すぎる。30ℓ入り、他は100円なのに長浜市は300円。 |
| 16 | 女 | 84 | 一人暮らしで、身近に相談したり、急病の時、特に夜中などに対応し助けてもらえる人がいないので心配である。 |
| 17 | 女 | 85 | 民生委員さんにお弁当の配食サービスをいただいていたのですが、村で私一人になったので止めました。 |
| 18 | 男 | 88 | 最近ではコロナ禍もあり活動は少ないと思います。楽しく集会できる機会を設けてほしい。 |
| 19 | 女 | 95 | 高齢となり迷惑をかけぬようにと心がけておりますが、毎日感謝を忘れぬよう心がけております |
| 20 | 女 | 78 | 絵手紙をいつも頂きましてありがとうございます。サイドボードに張り全部残しておきます。いつも見えています。 |
| 21 | 女 | 83 | スポーツに誘っても、参加する大切さはわかっていると思いますが、なかなか家から出たくない人が多いと思います。 |
| 22 | 男 | 84 | 隣近所のお付き合いが希薄になり、ちょっと手助けの時の頼みがしにくい。小運動会や年末のお楽しみ会の活動に援助を。楽々愉快地余生を送りたいですね。若者にも協力いただくのが肝要かな。 |
| 23 | 男 | 90 | 最近腰痛が悪化し、週1回デイサービスに通っています。耳も聞こえにくくなりましたが、野菜や仏花を栽培しています。妻が認知症で施設入所ですが、費用が高く大変です。腰痛が悪化しないよう願っています。 |

| | | | |
|----|---|----|---|
| 24 | 男 | 96 | 免許証を返納したためどこへも行けず、必要な買い物に一番不自由する。知人にお頼みすると快く答えていただけるが、心ばかりのお札を受け取っていただけないので心苦しく、次が頼みづらい。 |
| 25 | 女 | 78 | 高齢者の一人暮らしは力のいる仕事や高い場所の仕事（電球を替えるとか）除雪などが出来ず困ることがある。シルバーさんに頼むほどでもなく、人に頼むのもおっくうになる。 |
| 26 | 男 | 7 | 独居老人であり、常に声掛けして、近隣でお互いに健康管理に注意していきたい。 |
| 27 | 男 | 80 | 高齢のなかで収入は年金のみで、医療費、特に税金に対する減額及び補助等を見直してほしい。現状は低所得で生活が非常に厳しい。 |
| 28 | 女 | 78 | 私たち高齢者と若い世代の人たちの考え方が、今すぐかけ離れて織と思います。それを止めるには、三世代の人たちがふれあうことでは無いでしょうか。 |
| 29 | 女 | 77 | 支援が必要です。 |
| 30 | 女 | 77 | 市民病院へ行く交通手段。バス停や駅まで行く交通手段。タクシー利用は高くつく。 |
| 31 | 女 | 79 | だんだん運転もできなくなります。デマンドタクシーで長浜病院、日赤病院まで行きたい（湖北町のように）。デマンド、大きい自治会は停留所を2か所にしてほしい。 |
| 32 | 女 | 81 | ごみ出しの集積場が遠い。 |
| 33 | 女 | 86 | 80代後半の夫婦です。年々思考力は低下し、体力は減退、それに伴う痛みと心の葛藤。それでも動かなくてはならない毎日です。老々介護の日が訪れるのは間違いないと思います。心の準備をしておかなくてはなりません。 |
| 34 | 女 | 88 | いつも「ほのぼの給食サービス」有難うございます。これが手元に届くまでには、小学生の手紙、絵手紙からはじまり、多くの方々が関わってくださっているのだなと思いつつ、感謝しながらいただいています。ありがとうございます。今までと違って民生委員さんがマメに声をかけてくださるので、心丈夫です。相談にも乗ってくださり、感謝しています。 |
| 35 | 女 | 91 | 粗大ごみなど一人では出来なくて、自治会の役員に頼みましたが良い返事がもらえず、今後どうしたらよいか困っています。 |
| 36 | 男 | 86 | 放送が聞こえにくい。メールが良い。7時の放送は6時半か7時半に。スピーカーが移動できるように。 |

(6) 住民懇談会意見

「第3期高月地区住民福祉活動計画「ほのぼのとした“わ”でひろがるまち高月」住民懇談会」

日 時 令和5年10月13日 19:00～21:00 高月福祉ステーション

目 的 第3期高月地区住民福祉活動計画策定に向けて、住民のみなさんから広く意見を求めるものです。

参加者 各自治会福祉推進員代表者 23名

民生委員児童委員 15名

各学校園PTA会長 3名

高月地区住民福祉活動計画策定委員 11名

高月地区社協総務部会員 3名

長浜市長寿推進課、健康推進課 2名

湖北高月地域包括支援センター 2名

長浜市社協生活支援コーディネーター 5名 計64名

内 容 高月地区の現状を報告し、第2期の進捗の結果と課題について、および第3期計画について全体説明と質疑応答を行いました。続いて8グループに分かれて意見交換会を実施しました。

高月の現状はどうか、どんな課題があるか、アイデアはあるか、等について話し合いましたが、自治会で出来ること、団体や組織で出来ること、自分で出来ること等について、活発な意見交換が出来ました。連携した取り組み、若者の参画、子どもや高齢者の居場所づくりなど、積極的な意見が多く、有意義な懇談会でした。先のアンケート等と合わせ、第3期計画にしっかり反映させます。

グループ討議で出された意見の概要を、第3期基本目標ごとに分類しました。

| 班別 | 現状 (取り組み・仕組み・成果) | 課題 (悩んでいること・壁に感じること・うまくいっていないこと) | アイデア (こんなふうになればいいな、あったらいいな、自分たち、地域、自治会で取り組めること) |
|------------------------|--|--|---|
| 基本目標1 つながりを広げる交流と参画 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でサロンや老人会活動など縮小し、スタッフの高齢化やリーダー不足など、維持していくのが難しくなっている。 ・福祉のつどいや夏祭り、子ども縁日など、参加者も多く、それなりの成果が出ている。 ・自警団消防団や自治会で協議をして、いのちのバトンで安否確認をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で高齢者を支えることになっていない。一年交代の役員はやらされ感がある。継続した取り組みと世代交代が必要。 ・引きこもりや孤独状態の老人をどう見守るか、昔と同じやり方でなく、共生社会の考え方を浸透させる活動の工夫ができないか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども縁日のような、みんなが参加できて楽しめる取り組みを考える。 ・声掛けや仲間づくりなどで、子どものころから地域の居場所づくりに取り組んで思いやりの心を育てる。 ・避難支援など具体的な取り組みを通じて見守りにつなげる。情報をどうつなげていくかが大切。 ・基本は、自治会がどうすれば活性化するかを考えること。見守り会議など長い目で取り組める仕組みが必要でないか。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の交流の場が減っている(いつも同メンバー)。 ・高齢者の求める地域の交流の場が変化してきている。 ・若者も何かやりたい気持ちはあるが、何かがわからないでいる(コロナ禍以降地域行事が減っている)。 ・自治会、民生委員、老人会などそれぞれがバラバラで活動している。 ・地域で独居老人のお世話など特定の人に任せている、 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の交流の場に子ども、若者に参加してほしいが、大人が仕事などで忙しい現実がある。高齢者が役割を担えないか。 ・各種団体の連携がないので情報交換できていない。自治会役員や民生委員の仕事にしていないか。1～3年で交代してしまうので継続した取り組みにならない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング、グラウンドゴルフ、運動会等、多世代が学びあえる場。 ・子どもを巻き込む行事で、若者、高齢者が集い、自治会内の住民の役割が体感できる。 ・情報共有のために連合自治会が主になって先ずフリートークの場を作る。 ・自治会内で人のかかわりを増やす見守り支えあいの仕組み。 |

| | | | | |
|------------------------|-------------------|---|--|--|
| <p>基本目標 2</p> | <p>グループ 1 プ 3</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・声掛けすると「今日初めてしゃべった」という独居の人が多くいる。声の掛け合いが減っている。 ・頃合いがむずかしい。暖かいストーブにはみんな寄ってくるが冷たいと誰も来ない、熱いとみんな離れていく | <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の制限などもあり、住民の情報が入ってこない。 ・挨拶しても返事がかえってこない。逆に良かれと思っても相手がどう思っているか心配もある。 ・何か始めようと思っても一人では出来ない。逆に独りよがりでは仲間が出来ないし続かない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・何かを始めるときには仲間が必要。協力者がいれば物事がスムーズに進む。 ・子どもを対象にすると若い親が参加してくれる。小さな時から関わることで、思いやりやつながりの大事さを（学んでほしい）伝えたい。 |
| <p>思いやりでつながる居場所づくり</p> | <p>グループ 1 プ 4</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが見えなくなっている。外で遊ばない、運動会等町単位のイベントが無くなった、こども食堂へも（不登校の子への）理不尽なクレームが多い。 ・青年団のにぎやかし隊も活動休止状態。日曜学校参加者も減。 ・自分の田んぼがどこにあるかすらわからなくなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな世代の支援を考える！ ・サロン、ボランティア団体の後継者が減少している。 ・保護者世代の学校行事参加やスクールガードが減っている。 ・子どもが遊ぶ、過ごす居場所がない（外で遊ばない）。 ・近所の人に声をかけられてもヨソの人になってしまっている。 ・子どもの人数が激減し、若い人が村を出て、村の行事も成り立たなくなってきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを地域でどう育て、守るのかを真剣に考える。 ・次の世代が地域を担う人材に育ててほしい、育てたい。 ・町を挙げてのイベントの実施を！ 17 日ごえん市の活性化、観音まつりの継続拡大。 ・いろいろな立場の人が主人公になれる場を提供してほしい。 |

| | | | | |
|-------------------------------|---------------------------|--|---|--|
| <p>基本目標 3 地域で支える見守り活動</p> | <p>グループ 1 プログラム 5</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ほのぼの給食で民生委員の面談と見守り、子どもの手紙が好評 ・見守り会議の取り組み。馬上的大雨対策で将来的に奏効。 ・認知症サポーター養成講座の取り組みを見守りに結び付ける。 ・ストップマーク、フードドライブの実施、見守り支えあいの取組 ・自治会活動、コロナで何もしないことに慣れてしまった。 ・サロン活動をコロナ禍でも継続して取り組んでいる所もある。 ・縁満カフェで、すこし運動能力が戻った人もある ・役員の年齢層も下がってきて、高齢者の課題が見えにくくなってきた | <ul style="list-style-type: none"> ・見守り制度に取り組みたいが、遠慮や他人に任せることに抵抗がある人が多くてなかなか進まない。 ・自分が本当に困っていることは自治会長や民生委員には話せない ・自治会は1年交代だし民生委員も3年で交代。複数自治会を担当していると細かい状況がわからない。相談にも乗れない。 ・サロンなどやらされ感がある。気楽な集まりが出来ないか。だれか先頭に立ってくれる人が必要です。楽しみながら継続することが大事。 | <p>井戸端会議で気楽に話し合う場。渡岸寺庵や高月駅案内所の例がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核になる人と場所がある。参加者が固定化しないような働き掛けをする。リーダーとして、地域のお世話好きの方を見つける。 ・防災マップの作製やフードドライブなど具体的な取り組みを通じて仕掛ける人の輪を広げる |
| <p>見守り活動</p> | <p>グループ 1 プログラム 6</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・独居老人の配食サービスや友愛訪問等民生委員との連携大きい ・自治会で防災福祉マップの作製や避難支援見守り支えあい制度の登録など気も細かい取り組みをしている。 ・自治会では世帯表等で、実情は把握できている。 ・子どもの登下校の見守りも全地域で確実に取り組んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方へのかかわり方、連携の仕方が十分に出ていない。 ・避難支援の登録内容が、実際の行動に活かせるか不安がある。 ・自治会、民生委員など詳細な引き継ぎが出来ていないので、いざという時に即応できるか不安がある。 ・民生委員活動の中で、学区連合や他自治会とのつながりが難しくなかなか実態が把握できない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のサロン活動はそれなりに定着してきているが、メンバーが固定化されて広がりが無い。趣味や目的別の小グループがたくさん出来れば出合う機会が増えて情報が入りやすくなり、見守りにつなげられる。 |

| | | | | |
|-------------------------------|--------------|---|---|---|
| <p>基本目標4 活動を支える仕組みづくり</p> | <p>グループ7</p> | <ul style="list-style-type: none"> 交通安全パトロール、交通安全協会から自治会担当表が配布されている。組織化されている。 高齢者に小学校の運動会の招待状を送る活動、地域の連携やふれあい、安否確認に有効。ほのぼの給食も同様の効果がある。 自治会、福祉委員、民生委員の連携がスムーズな地域もあるが、担当者の熱意によって変化がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 福祉推進員の役割が明確になっていない。位置づけもあいまいなところもある。理解する場を増やして、役割を与えるのが大事。逆に、頼みすぎると担い手不足になりかねない。 高齢者やその他の要支援者がしっかり把握できていない。わかったつもりでいるだけで、本当のニーズにたどり着けていない。 若い人の関わり、特に中学生を巻き込んだ活動が出来ないか。 | <ul style="list-style-type: none"> 同じことを団体がそれぞれでしていることがある。統一するとか、一緒に広報するとかで効率化が図れないか。 活動の基本は自治会。子ども会と老人会が連携してイベントをするとか、年に1、2回集まってコミュニケーションをとるとか、5年先を目標に取り組めないか。 高月地区の自治会、団体が情報交換し思いを共有する。さらに足りない所があれば他の団体が補う取組み。 |
| | <p>グループ8</p> | <ul style="list-style-type: none"> 老人会に加入しないと、村の出事がイヤで出ていく人もある 地域の人が朝子どもに挨拶している。顔見知りの関係が震災などの時に力を発揮できる。 コロナ禍。いつも元気で来ていた人が急に来なくなった。世間のかかわりが薄くなってきている。サロンも世話役に任せきりのようなところがある。 | <ul style="list-style-type: none"> いろいろ連携しているが、うわべだけで、本当に連携できているのか不安である。 横のつながりが大事だが、実際は自治会の行事も少なくなり、老人会の未加入が増えてきている 未婚者が増加している。その人の将来や少子化への懸念がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 関わる人を増やす工夫をして、スタッフの負担を軽減しないと長続きしない。 各団体の連携、横のつながりを広げて地域全体の活性化を目指す仕組みが必要でないか。 これまでの行事を見直し、簡素化を図って参加しやすい取り組みを考えることも大事。 |